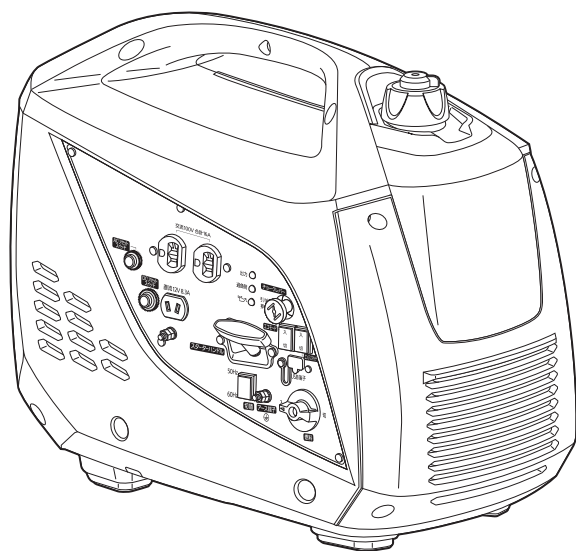


インバーター発電機

IGG-1600

取扱説明書



この商品は海外ではご使用になれません。
FOR USE IN JAPAN ONLY

保証書付 (裏表紙)

このたびは、お買い上げいただきまことにありがとうございます。

- この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
- 使用する前に「安全上の注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書はお使いになる方がいつでも見ることができるよう大切に保管してください。
- 「保証書」は「お買い上げ日」「販売店名」の記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

ご使用の前に

安全上の注意	2
使用上の注意	5
各部の名称	6

取り扱いかた

各部の取り扱い.....	8
運転前の点検	13
使いかた	17

こんなときには

移動・運搬するときは.....	23
定期点検	24
常時使用しないときは（防災用途など）.....	25
点検・整備	26
保管するときは.....	31
使用できる範囲.....	33
アフターパーツ・付属品について.....	34
故障かな？と思ったら.....	35
仕様.....	38
保証とアフターサービス	39
保証書	裏表紙

安全上の注意

最初に、この「安全上の注意」をよく読んでいただき、正しく使用してください。

人への危害や、財産への損害を未然に防止するため、必ず守る必要があることを説明しています。

図記号の意味



注意を促す記号です。



禁止を示す記号です。



必ず行うことを示す記号です。



危険

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うおそれが高い、差し迫った内容を示しています。



- 燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁

たばこを吸ったり、炎や火花などの火気を近づけないでください。燃料はエンジンを止めてから補給してください。燃料への引火や火災の原因となります。



- 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しない
また、本機の上にものを乗せて使用しない



- 車内、テント内、トンネル内、倉庫、井戸、船倉、マンホールなど室内及び換気の悪い場所では運転しない

エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

- 傾斜地で使用しない

平坦・水平で硬い場所で使用してください。また、運搬時は燃料を抜いてください。燃料タンクキャップつまみやキャブレターから燃料がこぼれ、火災の原因となります。



- 本機付近に障害物や危険物、燃えやすいものを置かない
建物及びその他の設備から1m以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。

- 本機の周りにガソリン、エンジンオイル、または危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（わらくず、紙くずなど）を近づけない
本機から出る排気ガスは熱くなります。本機や本機に接続された電気機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす原因となります。



- 燃料をこぼさない

燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。



- コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まない
感電の原因となります。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。



- 車載状態で使用しない
この発電機は車載用としては製造していません。
- カバー類を外したまま使用しない
手や足をはさんだり、思わぬ事故が起きる原因となります。



- 本機の取扱説明書を理解していない人は、操作を行わない
本機を他人に貸すときは、必ず取扱説明書も一緒に貸してください。



- 本機に子供・ペットが触れないよう、隔離措置をして安全な場所で運転する



分解禁止

- 本機を分解、修理、改造しない
取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをする、また本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。



- 疲れているときや病気のと看、酒気を帯びた状態や薬物・医薬品を摂取した状態で運転しない



- エンジンを始動させる前に必ず運転前点検を行う
人身傷害や機械の破損を防止することができます。「運転前の点検」(→P13)参照)
- 点検や清掃時は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを切の位置にし、点火プラグキャップを取り外す
エンジン停止直後のエンジン本体や排気口などは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。



- 電力会社からの電気配線には絶対に接続しない
本機や本機に接続された電気機器が故障したり、火災や人身事故の原因となります。



- 使用時には、適用される法律や規則にしたがう
労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などにしたがってください。



プラグを抜く

- 本機から離れるときは、必ずエンジンを止め、コンセントから電気機器の電源プラグを外す
電源プラグを外さないと、いたずらなどで電気機器が動き、思わぬ事故が起きる原因となります。



- 長期保管前には燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取り、本機を火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管する
抜き取った燃料は火災や爆発の原因となりますので、適切に処理してください。



水ぬれ禁止

- 雨や雪の中、水のかかる場所では使用しない
雨や雪、水でぬれている状態で本機や本機に接続された電気機器を使用したり、ぬれた手で操作したりすると、感電の原因になります。
- 本機を水洗いしない
電装部品の事故やショートが起きる原因となります。また湿気や凍結により、使用時に感電する原因となります。

安全上の注意 つづき



注意

誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり、物的損害が発生するおそれがある内容を示しています。



接触禁止

- 熱くなっている排気口やエンジン各部を触らない
やけどの原因となります。
- 始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れない
感電の原因となります。



- 本体に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しない
エンジン部品の早期摩耗の原因となります。



- 本機の回転部に棒や針金を入れない
けがの原因となります。



- エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けない
火災の原因となります。



- 燃料の種類と規定容量を守って使用する
守らないと、火災の原因となります。



- 運転中は移動させない
けがの原因となります。



- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止する
お買い上げ販売店またはアイリスコールにお申し付けください。



- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える
燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。



- 運搬、保管、運転時のいずれも本機が落下、横倒し、破損などしないよう水平を保つ
エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。



- 延長コードは、電気機器に合った十分な太さのものを使用する (→P19)

使用上の注意

ラベルのメンテナンスについて

- 本機には、銘板やラベルが貼付されています。記載内容をすべて読んでから、本機をご使用ください。
- 銘板が見えにくくなった場合やはがれた場合には、アイリスコールへご連絡のうえ、新しいものに貼り替えてください。

- 本機は医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器などの人命にかかわる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器やシステムなどへの組み込みや使用は意図されておりません。これらの用途に本製品を使用され、人身事故、社会的障害などが生じても弊社はいかなる責任も負いかねます。

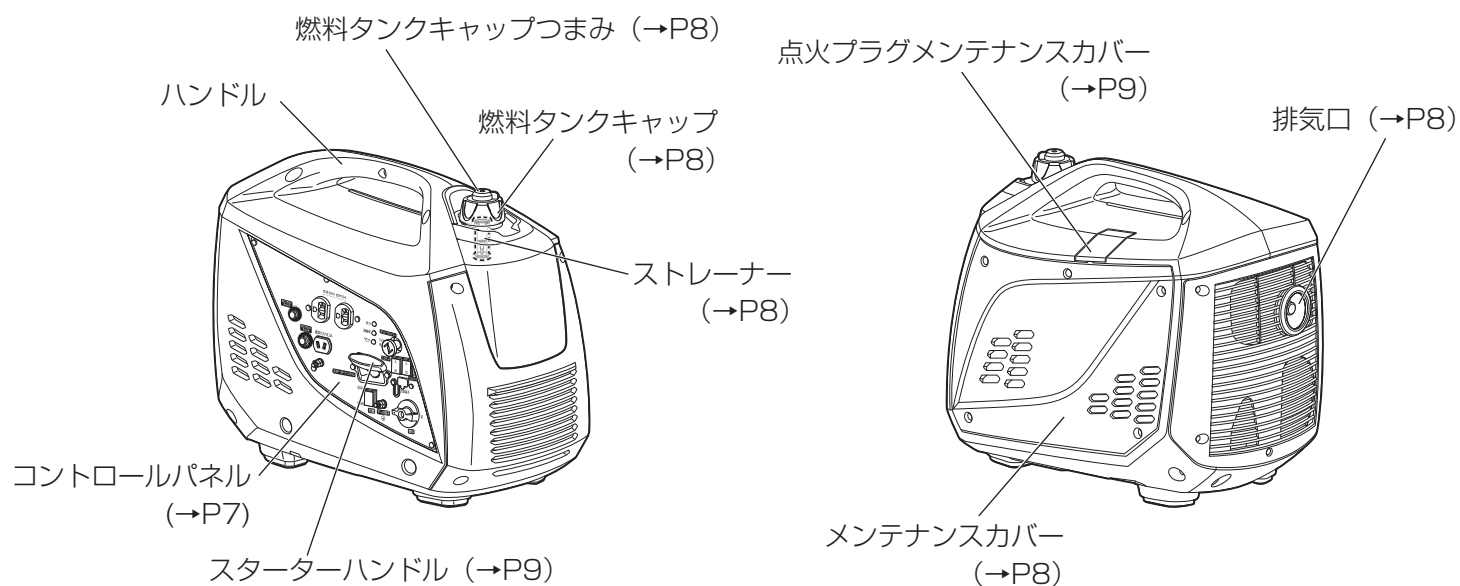
- 天災地変や、不当な修理・改造、不適切な整備などによる事故・破損に対する補償はいたしかねます。

- 標高1000m以上の場所で使用する場合には、高所用キャブレターに交換する必要があります。アイリスコールにお問い合わせください。

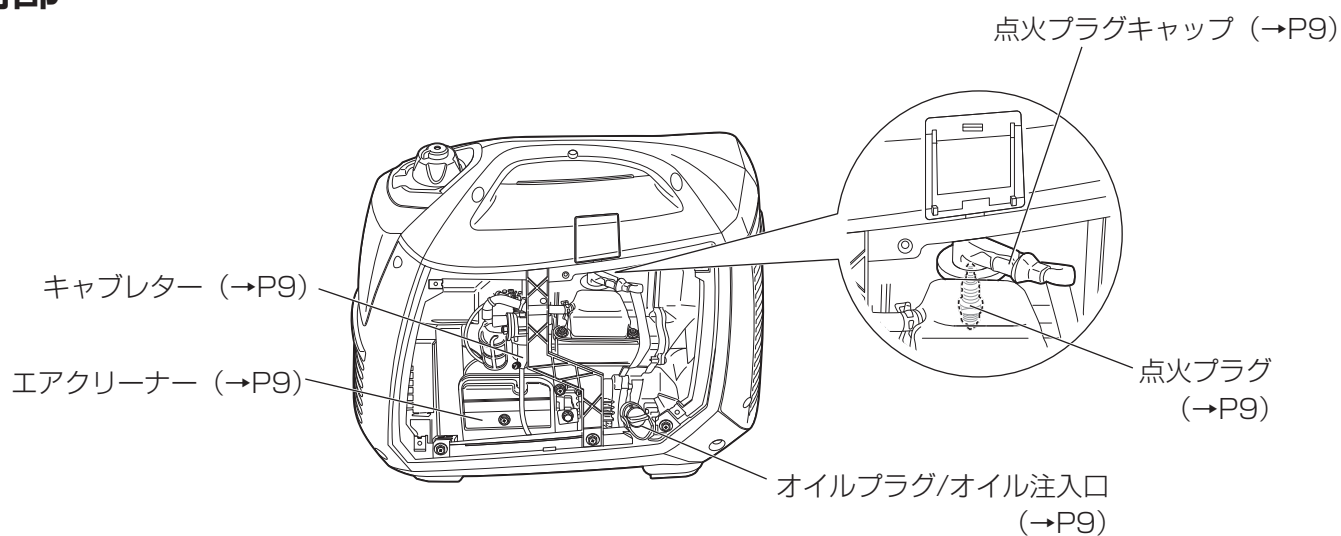
- 運転するときには必ず取扱説明書を携帯してください。

各部の名称

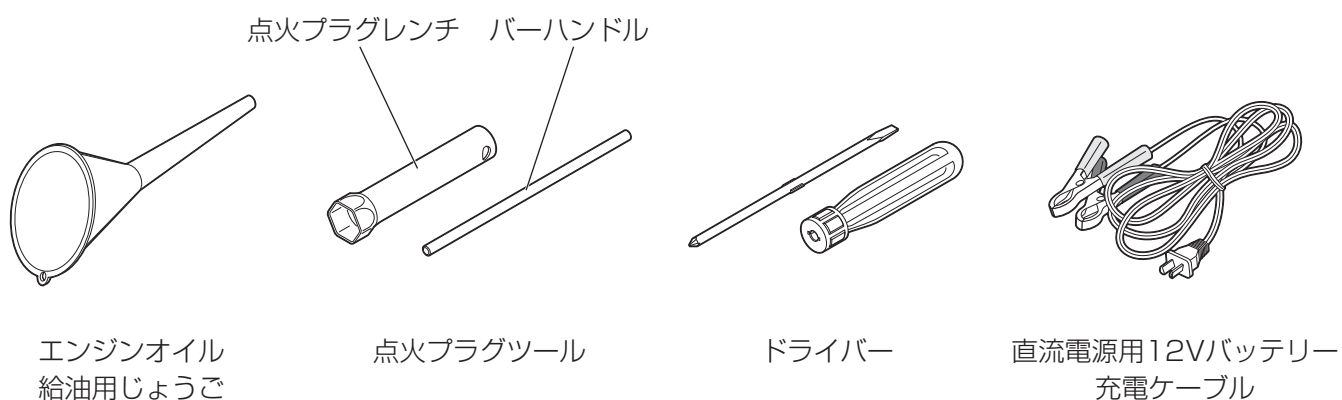
■外部



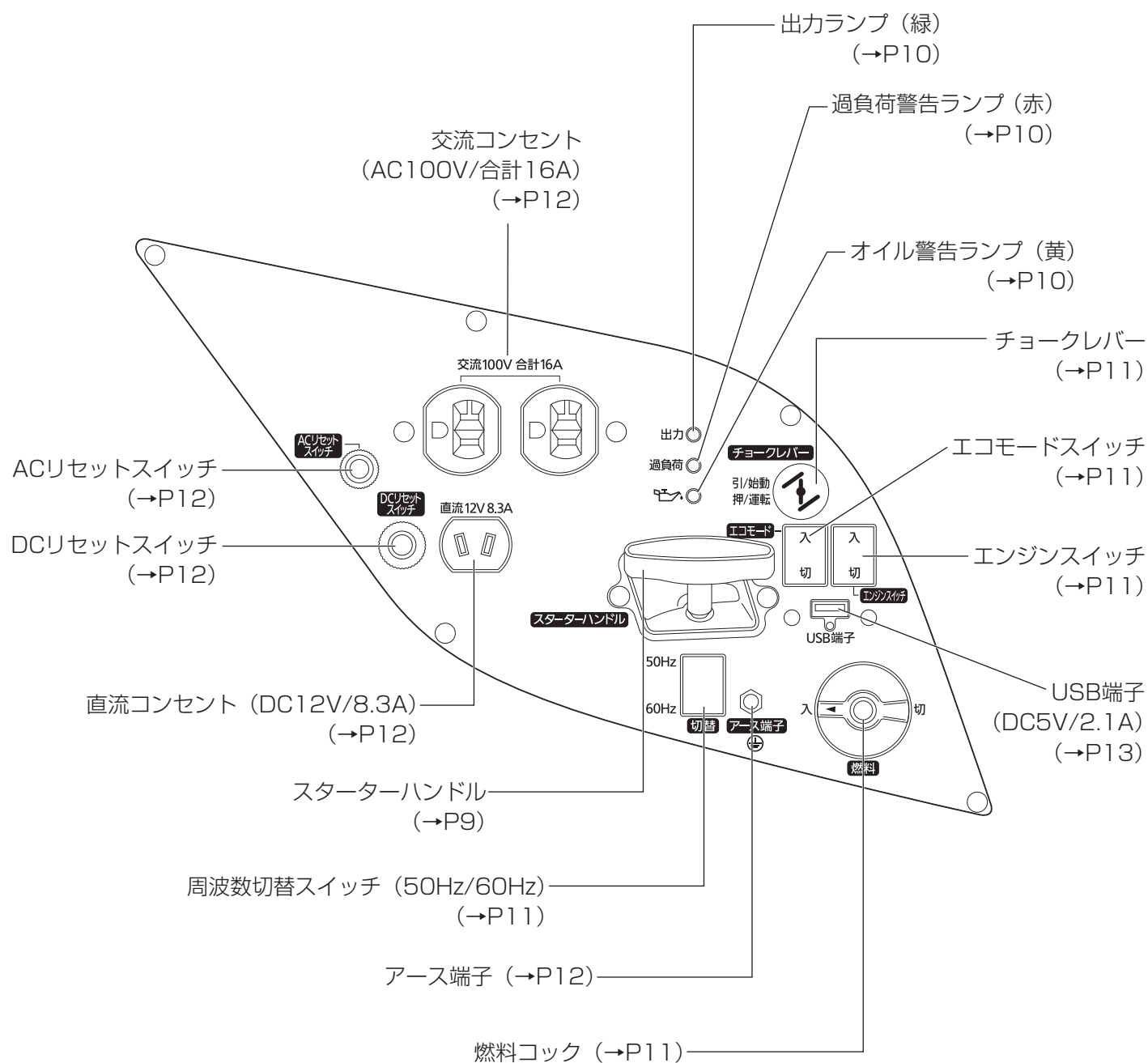
■内部



■付属品



■コントロールパネル



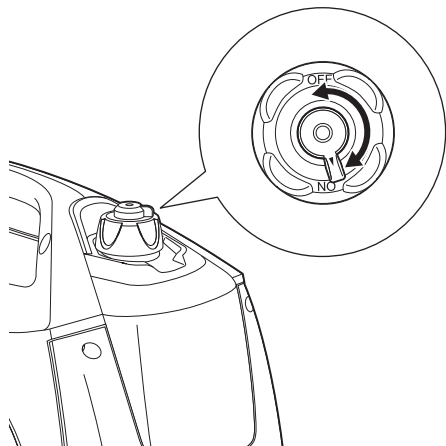
各部の取り扱い

■燃料タンクキャップつまみ

燃料タンク内と外気の通気孔の開閉装置です。
本機を運転および停止する場合に使用します。

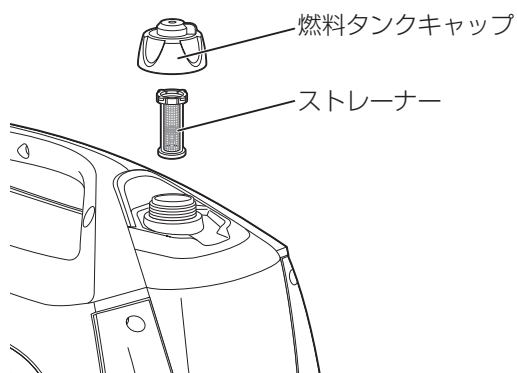
ON：本機の運転するときの位置

OFF：本機を停止したとき、または運搬・保管をするときの位置



■燃料タンクキャップ/ストレーナー

燃料を入れるタンクのキャップです。キャップを開けると、中にストレーナー（燃料フィルター）が取り付けられています。



■排気口

エンジンからの排気が出る穴です。



注意

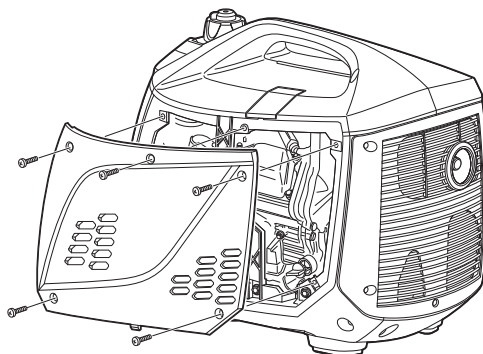
●使用中や使用直後は触らないでください。高温になっているため、やけどの原因となります。

■メンテナンスカバー

エンジンオイル、エアクリーナー、点火プラグ、キャブレターをメンテナンスする場合に取り外します。

取り外しかた

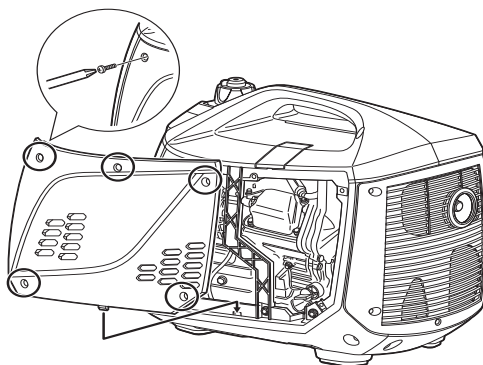
- ・メンテナンスカバーのねじ（5か所）を回して外し、カバーを取り外します。



- ・取り外したねじやカバーを紛失しないようにご注意ください。

取り付けかた

- ・メンテナンスカバー下部にある凸部を本体にはめてカバーを閉じた後、ねじ（5か所）を締めて固定します。

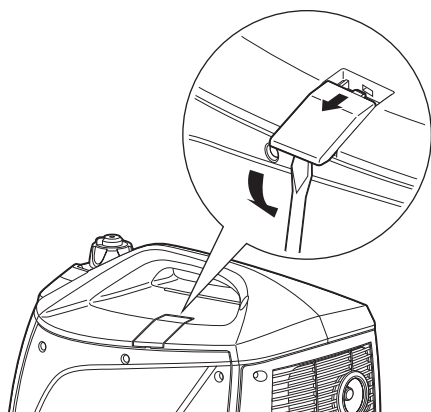


■ 点火プラグ メンテナンスカバー

点火プラグをメンテナンスする場合に取り外します。
※ 点火プラグの点検・整備は、点火プラグメンテナンスカバーとメンテナンスカバーを両方取り外してから行ってください。

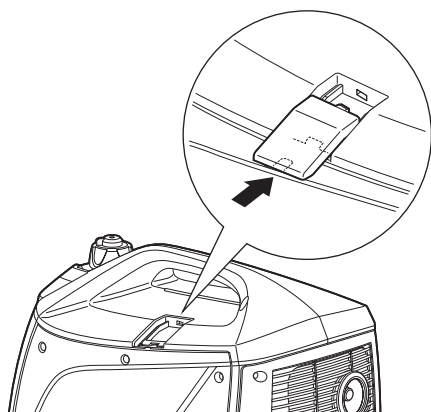
取り外しかた

- ・ドライバーを点火プラグメンテナンスカバーの切り欠き部に入れ、ドライバーを下げてカバーを開けます。



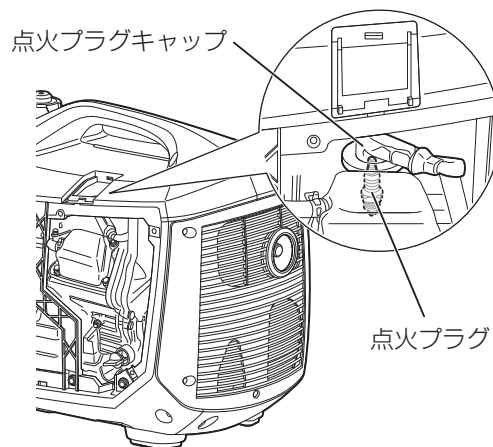
取り付けかた

- ・カバー裏側にある2か所のツメを本体のくぼみに合わせ、スライドさせて本体に取り付けます。



■ 点火プラグ/ 点火プラグキャップ

点火プラグキャップを取り外すと、点火プラグがあります。点火プラグの取り付け・取り外しの際は付属の点火プラグツールを使用してください。



■ キャブレター

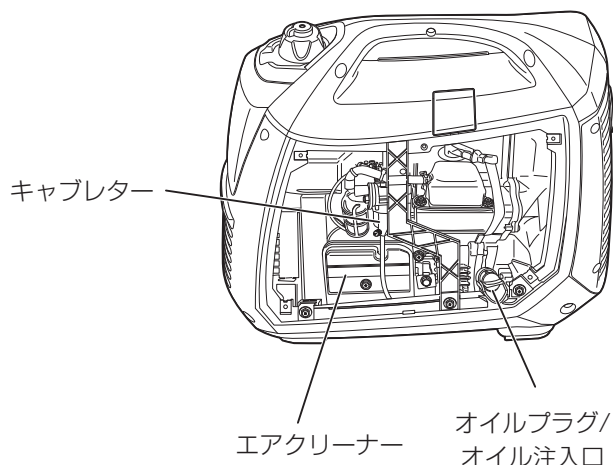
エンジン内でガソリンを気化して空気と混合するための装置です。

■ エアクリーナー

キャブレターにきれいな空気を取り込むための装置です。

■ オイルプラグ/オイル注入口

オイルプラグを外して、エンジンオイルのメンテナンスを行います。



■ スターターハンドル

エンジンを始動させるときに使用する紐が付いたハンドルです。

各部の取り扱い つづき

■付属品

本機の点検・整備で使用する工具類が付属しています。付属品がそろっているか確認してください。

- ・ 点火プラグツールは、点火プラグの取り付けや取り外しに使用します。点火プラグレンチとバーハンドルを組み合わせ使用してください。

■ランプ類

本機の状態を、オイル警告ランプ（黄）・過負荷警告ランプ（赤）・出力ランプ（緑）の3つのランプでお知らせします。

出力●

過負荷●

オイル●

オイル警告ランプ（黄）

エンジンオイル量の不足を警告するランプです。

- ・ 本機には、オイルレベルが一定レベルを下回るとエンジンの焼き付きを防止するためにエンジンを停止させるオイルアラート機能が搭載されています。この機能が働くとオイル警告ランプ（黄）が点灯します。この場合、エンジンオイル量を点検し、必要に応じて給油をしてください。（→P15）
- ・ 本機が傾斜していると、エンジンオイルが規定量入っていてもオイルアラート機能が働くことがあります。本機を使用する場合は水平状態にしてください。



注意

- エンジンオイルは規定量以上に給油しないでください。エンジンが停止したり白煙が出るなど不調の原因となります。
- エンジンオイルは定期点検表（→P24）の通りに交換してください。オイルアラート機能の誤作動やエンジンの焼き付き・故障の原因となるおそれがあります。

過負荷警告ランプ（赤）

発電中、異常があった場合に点灯・点滅するランプです。

- ※ エンジン始動後、異常がなくても数秒間点灯します。
- ※ 本機は電気の供給を遮断し、電気が取り出せなくなりますが、エンジンは停止しません。急に大きな電気を取り出した場合、エンジンが停止することがあります。

過負荷警告ランプ（赤）は、電力負荷が1760Wを超えた場合に点灯します。また、負荷が1840Wを超えた場合、ランプが点滅して電力の供給が止まります。この場合、エンジンを切って5秒間待ち、本機を再始動してください。

出力ランプ（緑）

発電の状態を確認できます。発電中に点灯します。

ランプの表示について

各ランプの点灯条件は以下の通りです。

ランプの点灯や点滅で本機の状態をお知らせしています。

ランプ	状態	原因	処置
出力ランプ（緑）	点灯	通常運転	
	消灯	他ランプが点灯すると自動的に消灯します	
オイル警告（黄）	点灯	エンジンオイルが少なくなったとき	エンジンオイルを補充する
	消灯	通常運転 本体停止後、自動的に消灯します	
過負荷警告（赤）	点灯	交流コンセントから1760Wを超える電気が出力されたとき	負荷を減らす
	点滅	交流コンセントから1760Wを超える電気が出力され、30秒間改善動作がないとき	負荷を減らす
		負荷が1840W以上になる場合（エンジンは運転するが、交流コンセントが出力停止）	負荷を減らす 本体を再起動する
		排気口が詰まっている	排気口を掃除する
	消灯	通常運転 本体停止後、自動的に消灯します	
その他		修理をご依頼ください	

■ エンジンスイッチ

本機を運転・停止するときに操作します。

入：エンジンを運転するときの位置です。

切：エンジンを停止するとき、保管するときの位置です。



注意

- 本機を使用しないときは、エンジンスイッチを切、燃料コックを切、燃料タンクキャップつまみをOFFにしてください。

■ エコモードスイッチ

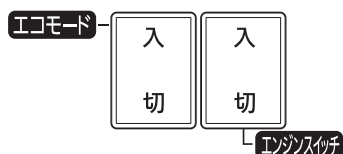
使用する電力量に応じてエンジン回転数を変化させて、燃料の消費と騒音を抑えるエコモードに切り替えるスイッチです。

入：エコモードを使用します。電気機器を動作させている間の燃料消費や騒音を抑えることができます。電気機器を使用しないときは自動的に低速運転になります。

切：エコモードを使用しません。電気機器の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。

※ 次の場合はエコモードスイッチを切にしてください。

- ・エンジン始動時
- ・直流電源（DC）、USB端子使用時
- ・起動時に大きな電流が流れる電気機器（水中ポンプやコンプレッサーなど）を使用する場合



※ 定格出力以下でも電気の取り出し量が多く、エコモードで対応できない器具に使用した場合、エコモードスイッチが入のまま自動的に通常運転に移行します。

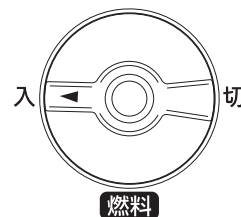
※ エコモードで電気機器が使用できない場合は一旦エンジンを停止し、エコモードスイッチを切にして再度試みてください。

■ 燃料コック

エンジンスイッチを入にした後、エンジンを動かすための燃料の流れを制御することができます。

切（初期状態）：停止および保管・運搬時の位置です。燃料は流れません。

入（運転時）：エンジンをかけるときの位置です。燃料が流れます。



■ チョークレバー

始動時にエンジンが冷えているなど、エンジンがかかりにくい状態のとき、このレバーを引いてからエンジンをかけます。

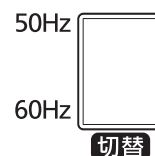
チョークレバー



- ・エンジンが温まっている場合や夏季は操作不要です。
- ・エンジン始動後、エンジンの回転が安定したら、チョークレバーを元の位置に戻して、しばらく暖機運転を行ってください。

■ 周波数切替スイッチ

周波数の切り替え（50Hz⇔60Hz）を行うスイッチです。エンジン始動前に、接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えてください。



- ・周波数を切り替える場合は、エンジンを停止してから行ってください。



注意

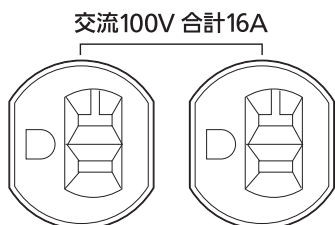
- 使用する電気機器の周波数が不明の場合は電気機器会社に相談してください。異なる周波数で使用した場合、電気機器が故障するおそれがあります。

各部の取り扱い つづき

■ 交流コンセント

交流電気を取り出すコンセントです。

※ 交流電気の取り出しかたは、「電気の使いかた」の「交流電源 (AC)」(→P19) を参考にしてください。



※ コンセントへ電源プラグを差し込む場合は、接触不良や抜けがないように確実に差し込んでください。

■ 直流コンセント (12Vバッテリー充電専用)

直流電気を取り出すコンセントです。

※ 直流電気の取り出しかたは、「電気の使いかた」の「直流電源 (DC 12Vバッテリー充電専用)」(→P20) を参考にしてください。



※ 本機の直流コンセントは12Vバッテリーの充電にのみ使用することができます。

※ コンセントへ電源プラグを差し込む場合は、接触不良や抜けがないように確実に差し込んでください。

※ 直流コンセント使用時は、エコモードスイッチを切にしてください。

■ リセットスイッチ

定格以上の電流が流れた場合に働きます。リセットスイッチが働いて電気が取り出せなくなった場合は、リセットスイッチを押して再開します。

・ 本機には交流 (AC) と直流 (DC) の両方にリセットスイッチが備えられています。



※ リセットスイッチを押す前に以下を確認してください。

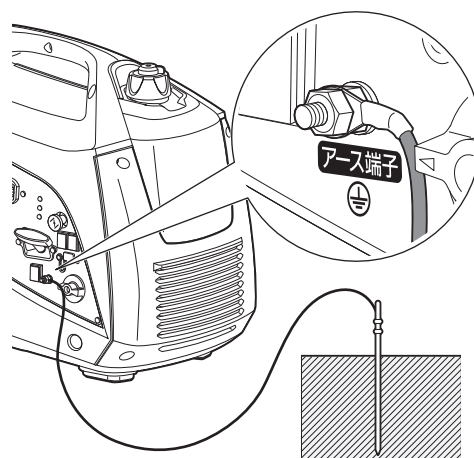
- ・ 使用している電気機器を本機から取り外してください。
- ・ 電気の取り出し過ぎがないか。(使用する電気機器は必ず定格出力内で使用してください。「仕様」(→P38)、「使用できる範囲」(→P33) 参照)
- ・ 接続配線に異常がないか。
- ・ 本機の温度が異常に高くなっていないか。
- ・ メンテナンスカバー類が確実に取り付けられているか。

■ アース端子

感電防止のためのアース線を取り付ける端子です。

※ 本機に接続する電気機器がアース付き電源プラグの場合、本機も必ず地面に接地 (アース) をしてください。

※ アース線は本機に付属していません。

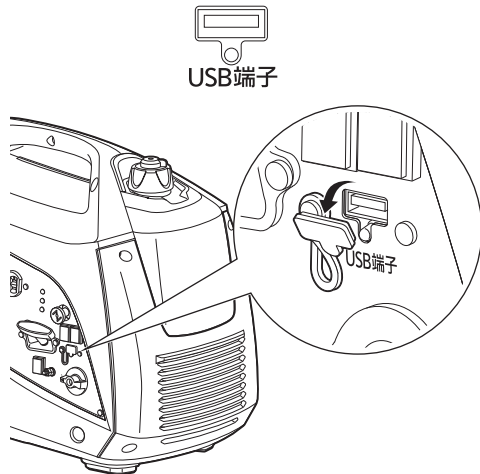


運転前の点検

■USB端子

本体のUSB端子にUSB充電機器を接続して、充電を行うことができます。

- ※ 本機にUSB充電ケーブルは付属しておりません。接続する機器に対応したUSBケーブル（別売り）を別途ご用意ください。
- ※ USB端子に接続した機器を充電する方法は、「電気の使いかた」の「USB出力」（→P21）を参考にしてください。



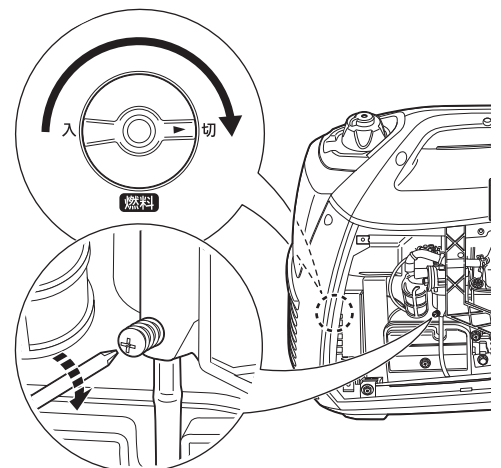
- ※ USB端子にプラグを差し込む場合は接触不良や抜けがないように確実にまっすぐ差し込んでください。

本機を運転するためには「燃料（無鉛レギュラーガソリン）」と「エンジンオイル」が必要です。**運転前には必ず点検を行い、給油をしてから運転してください。**

■燃料の給油

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量：3.4リットル

- 燃料給油は、本機が水平な状態で行ってください。
- ガソリンとオイルは絶対に混ぜないでください。
- 室内で給油をしないでください。
- エンジンが動いているときやエンジンの温度が高いときに給油しないでください。
- 燃料給油口にセットされているストレーナーの赤いレベルを超えないように給油してください。
- 給油の前に燃料コックが切の位置になっているか、ドレンねじがゆるんでいないか確認してから給油を行ってください。



- ※ ガソリンは非常に引火しやすく、気化したガソリンは爆発し死傷事故を引き起こすおそれがあるため、以下の注意点を必ず守って給油してください。

⚠ 危険

- 給油中は、たばこの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、身体に帯電した静電気を除去してから給油を行ってください。（本機や給油機の金属部分に手を触れることで放電することができます）放電しないと、静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火するおそれがあります。
- エンジンが熱いときは給油しないでください。エンジン停止直後などエンジンが熱いときに給油すると引火のおそれがあるため、エンジンが冷えてから行ってください。

運転前の点検 つづき

危険

- エンジンが熱いときや気温が高いときは燃料タンクキャップつまみをON・OFF（開閉）しないでください。液化したガソリンが勢いよく噴出するおそれがあるため、エンジンが冷えてから行ってください。

警告

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 古い燃料は使用しないでください。携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因となります。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また、燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料タンクキャップは確実に締め付け、燃料タンクキャップつまみをOFFにしてください。

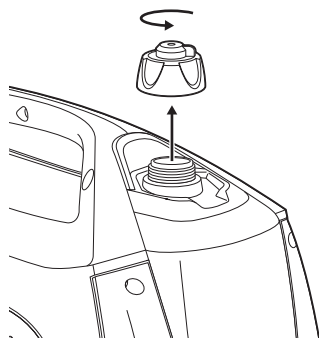
注意

- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤は使用しないでください。エンジンなどに悪影響を与えます。
- ガソリンは自然劣化するため、30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。
- 燃料の給油時、燃料タンク内に水、雪、ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布切れなどで完全に拭き取ってください。
- 燃料は規定量以上（ストレーナーの赤レベル以上）給油しないでください。入れすぎると、燃料給油キャップからにじみ出る原因となります。
- ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用してください。特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

1 燃料タンクキャップ周りをきれいにする

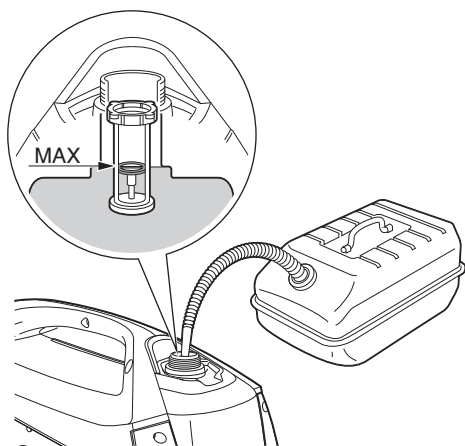
- 燃料タンクキャップ周りの汚れを拭き取ってください。

2 燃料タンクキャップを外す

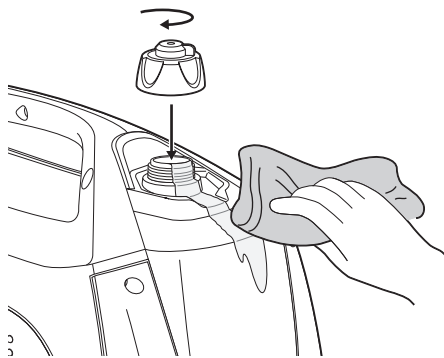


3 ゆっくりと燃料をタンクの中に入れる

- ※ 燃料は給油口にセットされているストレーナーの赤いレベル（給油限界位置）を超えないように給油してください。



4 燃料タンクキャップを閉め、こぼれた燃料を拭き取る



- ※ 給油後はキャップを確実に閉め、燃料タンクキャップつまみをOFFにしてください。

■エンジンオイルの給油

推奨オイル：4サイクル用エンジンオイルSE級以上
SAE 10W-30
オイル規定量：0.26リットル

- ・給油は、水平な状態で行ってください。
- ・エンジンには、オイルレベルが一定レベルを下回るとエンジンが停止するオイルアラート機能が搭載されています。

- 購入後、初めて使用するときは、エンジンオイルを規定量補給してください。工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていません。オイルが入っていない状態でエンジンを始動すると、オイルアラート機能が働き、エンジンが始動しません。
- 本機を傾けて給油しないでください。規定量以上のエンジンオイルが入るため、エンジンから白煙が出る、排気口が詰まるなど、故障の原因となります。給油には付属のじょうごを使用し、本機の水平を保ったまま給油してください。やむを得ない場合は、給油後、本機を平坦・水平で硬い場所に置いた状態でエンジンが完全に冷えてることを確認します。オイルプラグを取り外し、エンジンオイルがあふれないことを確認ください。あふれた場合は、きれいに拭き取ってください。
- エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。入れすぎた状態で始動すると、エンジンから白煙が出る、排気口が詰まるなど、故障の原因となります。
- 以下のような、「問題のあるエンジンオイル」は使用しないでください。
 - ・燃料と混じったもの
 - ・長期保管により変質したもの
 - ・水分、サビ、ゴミなど異物が混じったもの
 - ・アルコールが入ったもの
 - ・ペットボトルなど、消防法に適合していない携行缶や容器で保管したもの
 - ・化学合成油



注意

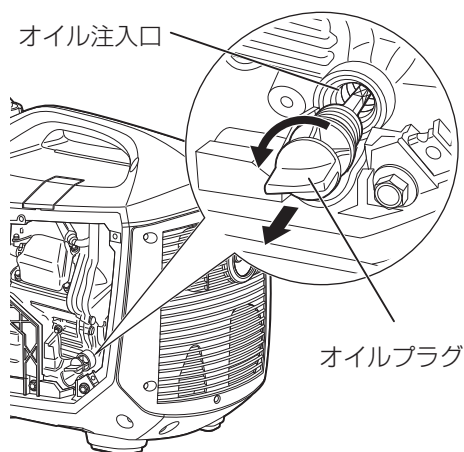
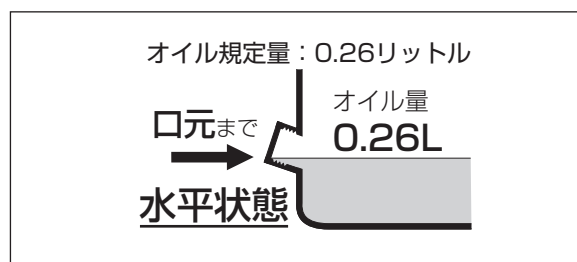
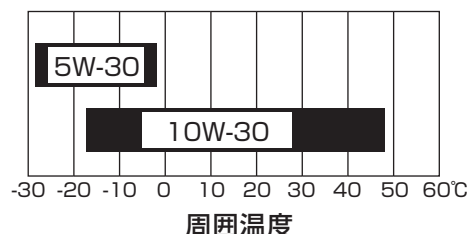
1 メンテナンスカバーを外す

- ・メンテナンスカバー固定ねじ（5か所）を回してカバーを外します。
- ・取り外しかたは、8ページを参考にしてください。

2 オイルプラグを外し、規定量を給油する

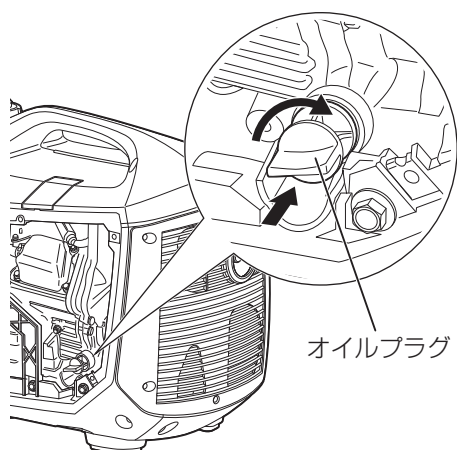
- ・給油時は本機を水平にしてください。
- ・オイルはゆっくりと給油してください。
- ・給油の際は付属のじょうごをご使用ください。
- ・こぼれたオイルは必ず拭き取ってください。

お使いの地域の平均気温が下図の範囲内であれば、他の粘度のオイルも使用することができます。



運転前の点検 つづき

3 オイルプラグを取り付ける



4 メンテナンスカバーを取り付ける

- ・メンテナンスカバー固定ねじ（5か所）を回してカバーを取り付けます。
- ・取り付けかたは、8ページを参考にしてください。

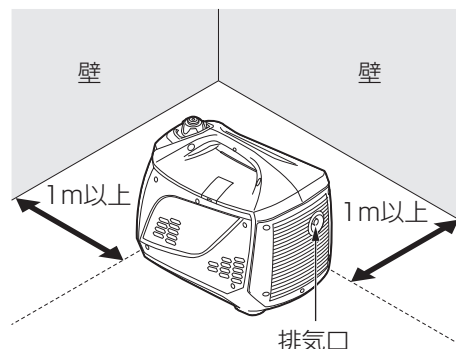


注意

- 使い始めは特にオイルのチェックをこまめに実施してください。初回のみ、1か月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。

■ 本機周辺・設置状況の点検

- ・本機は建物内で使用しないでください。
- ・可燃物（特にガソリンやエンジンオイルなど）や火の気の近くに設置しないでください。
- ・本機の四方を壁や障害物から少なくとも1m離して設置してください。また、排気口を風通しの良い、広い場所に向けてください。



- ・本機を段ボールなどで囲わないでください。
- ・水平な場所で使用してください。
- ・砂利や土、やわらかい地面など不安定な場所に設置しないでください。やむを得ずそのような場所で使用する場合は、固い板などを敷いて安定させてから使用してください。
- ・雨や雪や水などがかかる状態で使用しないでください。

※本機を動かした後、万が一気分が悪くなったり、めまいなどを感じ始めたら、使用を中止し、すぐにその場から離れ、専門医による診断を直ちに受けてください。有毒なガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

■ 燃料配管部の点検

- ・メンテナンスカバーを外し、内部のタンク付近の配管などに亀裂や損傷、燃料もれがないか、確認してからご使用ください。
- ・メンテナンスカバーの取り外しかたは、8ページを参考にしてください。

使いかた

■エンジンのかけかた

警告

- 換気や風通しが不十分な場所ではエンジンを始動しないでください。排気ガスが充満して、一酸化炭素中毒を引き起こすおそれがあります。

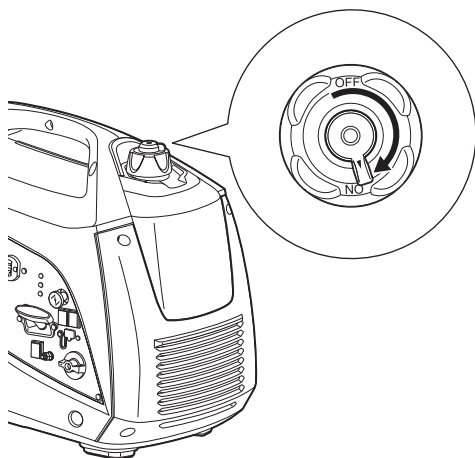
注意

- エンジンを始動する前に、本機に電気機器が接続されていないことを確認してください。始動前に電気機器を接続しないでください。
- 水平な場所に設置されているか確認してください。

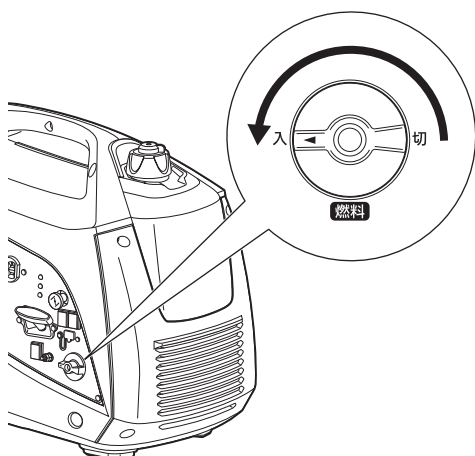
1 燃料タンク内の燃料の量を確認する

- ・燃料が不足している場合は、給油してください。(→P13)

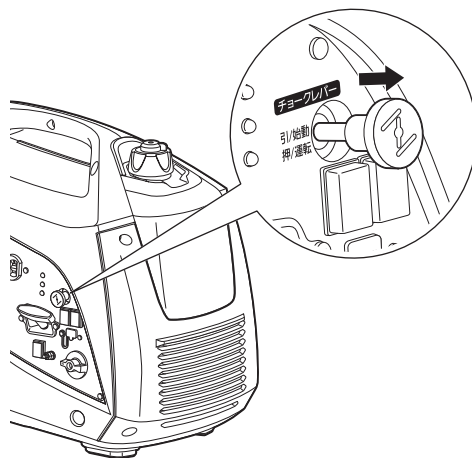
2 燃料タンクキャップつまみをONにする



3 燃料コックを入にする



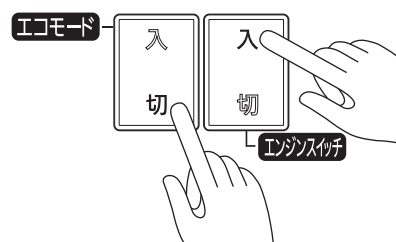
4 チョークレバーを引く



- ・エンジンが温まっている場合や夏季は操作不要です。

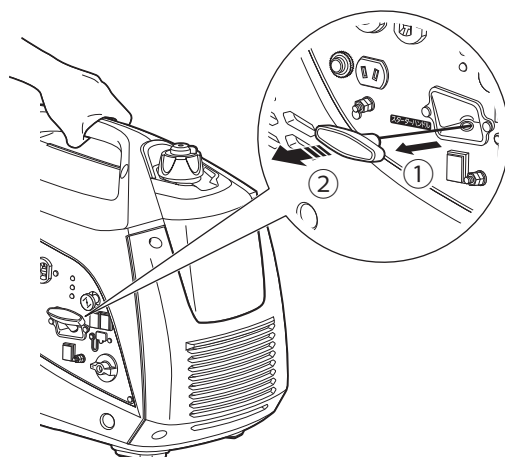
5 エンジンスイッチを入にする

- ・エンジン始動時は、エコモードスイッチを切にしてください。



6 スターターハンドルを引く

- ・初回使用時および長期保管の処理(→P32)をした後は、スターターハンドルを約10回引く必要がある場合があります。
- ・スターターハンドルを持ち、抵抗を感じるところまでゆっくり引きそこから一気に素早くスターターハンドルを引きます。



使いかた つづき

- ・スターターハンドルを引く勢いが足りない場合、エンジンの回転数が遅くなるためエンジンがかからないことがあります。
- ※本機が水平に置かれていない場合、エンジンオイルが足りないとオイルセンサー機能が判断し、エンジンが始動しない場合があります。(本機にはエンジンオイルが一定レベルを下回っている場合にエンジンを停止させるセンサーが搭載されています)



警告

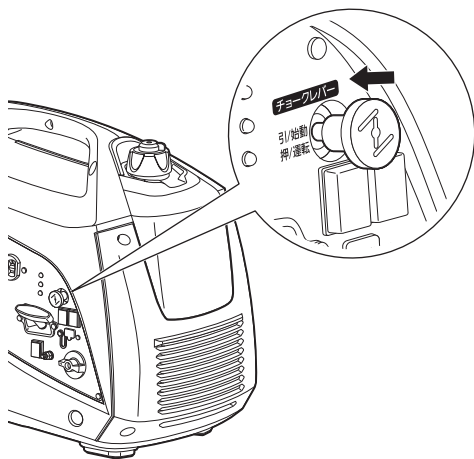
- 機器の構造上、無理にエンジンを逆回転させようすると、破損または使用者に損害を与える原因となります。



注意

- スターターハンドルは手を添えてゆっくりと元に戻してください。始動装置や周りの部品の破損または使用者に傷害を与えるおそれがあります。
- 運転中はスターターハンドルを引かないでください。エンジンが破損する原因となります。

7 エンジンの回転が安定したら、チョークレバーを押し戻し、しばらく暖気運転をする



- ・暖気運転は下記の時間を目安に行ってください。(暖気運転はエコモードが切の状態で行ってください)

気温	暖機運転時間	備考
5℃以上	3分	※ エコモード切の状態で行う
5℃以下	5分	



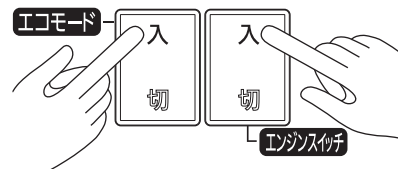
注意

- チョークレバーを引いたままの状態です長時間運転をしないでください。エンジンの故障の原因になります。

■エコモードの使いかた

エコモードは、使用する電力量に応じてエンジン回転数を変化させて、燃料の消費と騒音を最小限に抑える機能です。(→P11)

- ・エンジン始動後、エンジンスイッチが入の状態、エコモードスイッチを入にしてください。



※本機が移動、横倒し、落下、破損などしないような位置で请使用ください。特に横倒しにしたまま運転すると、エンジンがかからなくなるなど、エンジン故障の原因となります。

※排気口(スパークアレスター)内にカーボンがたまりにくくするため、定期的にはエコモードを切にしてエンジンを高速回転で運転してください。

■電気の使いかた

※使用方法を誤ると大変危険です。電気機器を接続する前には、「安全上の注意」(→P2～4)および各項目に記載された安全文を必ずご確認ください。



警告

- 電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災や人身事故、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。



注意

- 本機は接続された電気機器の使用状況にあわせて電圧が変化するため、電圧変化に敏感な電気機器は使用しないでください。
- 接続の可否が不明確な場合は、電気機器会社に相談してください。
- コンセントにほこり、汚れ、水などが付いている場合は、除去してから使用してください。
- 使用時には、適用される法律や規則にしたがってください。労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などにしてください。
- 欠陥のある(故障などしている/線及びプラグ接続部も含む)電気機器を接続・使用しないでください。
- 使用する電気機器、電源プラグは電気機器の説明書にしたがってください。

交流電源 (AC)

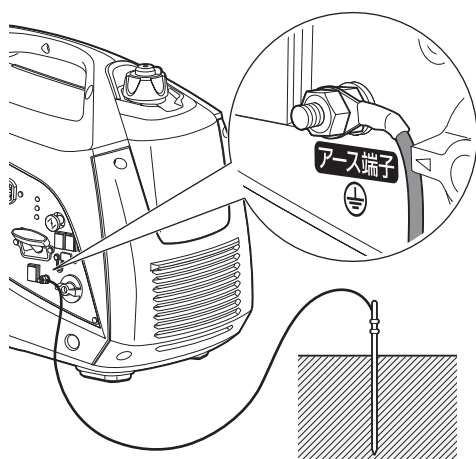
- ・ 接続前に使用する電気機器の消費電力を確認し、「使用できる範囲」(→P33)を参考にしてください。

1 周波数切替スイッチを、使用する電気機器の周波数に合わせる



2 アース端子を接続する

- ・ 感電事故の防止のため、アース接続を行ってください。
- ・ 接続する電気機器がアース付き電源プラグの場合、本機も必ず接地してください。
- ※ アース棒、アース線は本機に付属していません。



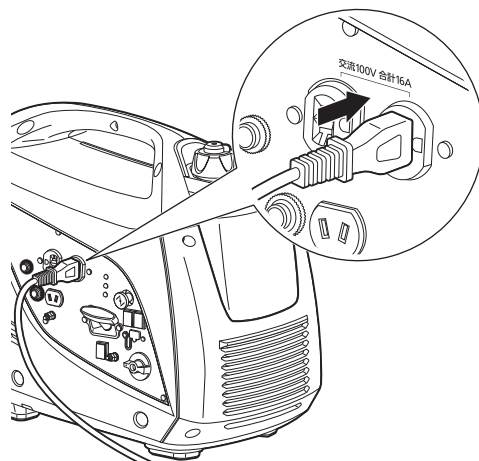
3 エンジンを開始し、出力ランプ (緑) が点灯していることを確認する

- ・ 「エンジンのかけかた」(→P17)を参考にしてください。



- ・ エンジン始動後、過負荷警告ランプ (赤) が数秒間点灯しますが、これは異常ではありません。

4 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、コンセントへ電気機器の電源プラグを確実に差し込む



※ 消費電力の合計が上限 (16A) を超えないようにしてください。(→P33)

⚠ 注意

- 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認してください。電気機器のスイッチが入っていると、電気機器が急に動作し、思わぬけがや事故を引き起こす原因となります。
- 延長コードを使用する場合、延長コードの断面積1.5mm² のときは60m以下、2.5mm² のときは100m 以下のものを使用してください。また、使用する電気機器、電源プラグは電気機器の説明書にしたがい、電気機器の仕様を確認してください。
- リール (巻き取りタイプ) で使用する場合は、リールに巻かれているコードをすべて引き出した状態で使用してください。巻いた状態で電気機器を使用すると、コードが熱を持ち、危険です。
- 弾力あるゴム絶縁ケーブル (IEC60245-4による) またはその同等品のみ使用してください。

使いかた つづき

5 電気機器のスイッチを入れる

- ・ 正常運転（定格負荷）で使用する場合、出力ランプ（緑）が点灯します。

※ 過負荷警告ランプ（赤）は電力負荷が1760Wを超えた場合に点灯します。また、負荷が1840Wを超えた場合は、過負荷警告ランプ（赤）が点滅して、コンセントの電力供給が止まります。この場合、リセットスイッチを押す（→P12）もしくはエンジンの運転を切り、約5秒間待った後、本機を再始動してください。

直流電源（DC 12Vバッテリー充電専用）

- ・ 直流電源使用時は、エコモードスイッチを切にしてください。



注意

- 直流電源（DC）で使用する場合は、ヒューズと過電圧保護回路が入った電気機器であることを確認したうえで接続してください。
- 直流（DC）と交流（AC）を同時に取り出す場合、交流（AC）機器の消費電力は、1500W(50Hz/60Hz)の範囲を守ってください。
- 充電時間はバッテリー液の比重によって異なります。

1 エンジンを始動し、出力ランプ（緑）が点灯していることを確認する

- ・ 「エンジンのかけかた」（→P17）を参考にしてください。

出力●

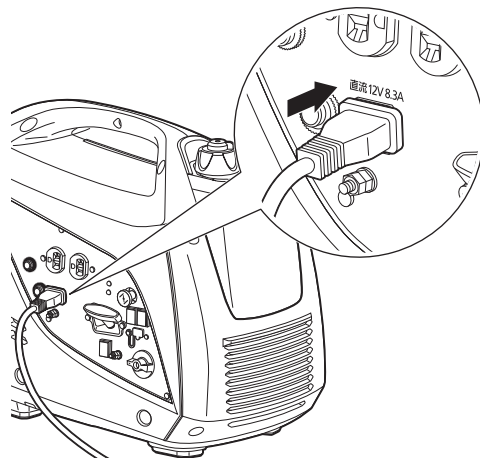
過負荷○

エンジン○

- ・ エンジン始動後、過負荷警告ランプ（赤）が数秒間点灯しますが、これは異常ではありません。

2 エコモードスイッチを切にする

3 本機に付属している充電ケーブルを本機の直流コンセントへ接続する



注意

- バッテリーへの接続は必ず付属の直流電源用12Vバッテリー充電ケーブルを使用してください。

4 バッテリー充電ケーブルの赤色端子をバッテリーの⊕端子に接続します

5 バッテリー充電ケーブルの黒色端子をバッテリーの⊖端子に接続します



警告

- バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、けがをすることがあります。次の点を必ず守ってください。
- ・ 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、たばこなどの火気を近づけないでください。爆発するおそれがあります。
- ・ 補充電は風通しの良いところで行ってください。
- ・ ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- ・ 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- ・ バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な損害を受けることがあります。
- ・ 子供の手が届くところに置かないでください。



警告

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。目に入ったときは、すぐ多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。



注意

- 満充電になるための時間はバッテリーの種類、放電状態（比重）によって異なります。
- 詳細は充電するバッテリーの説明をよく確認してください。
- 充電ケーブルの取り外しは、エンジン停止後に行ってください。

USB出力（USB機器充電用）

- ※「電気の使いかた」（→P18）に記載の注意書きをご確認のうえ、使用してください。
- 本機にUSB充電用ケーブルは付属しておりません。接続する機器に対応した別売りのUSB充電用ケーブルを別途ご用意ください。



警告

- 雷が鳴りだしたら、本機やケーブル・プラグなどに触れないでください。落雷により感電するおそれがあります。



注意

- 本機のUSB端子・プラグ部には指などで直接触らないでください。
- 本機のUSB端子や接続するケーブルのコネクタ部分に液体（汗や飲料水）や異物（細かいゴミやほこり、金属片等）が付着しないように注意してください。

1 エンジンを始動し、出力ランプが点灯していることを確認する

- 「エンジンのかけかた」（→P17）を参考にしてください。

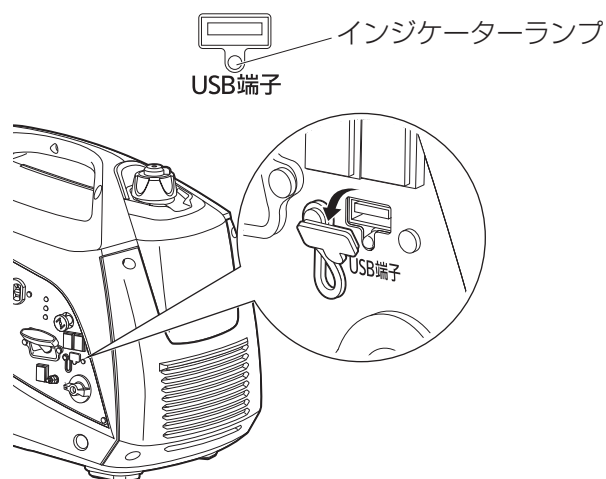


- エンジン始動後、過負荷警告ランプが数秒間点灯しますが、これは異常ではありません。

2

接続するUSB充電機器の電源が切れていることを確認し、USB充電用ケーブル（別売り）を使用して、USB充電機器を本機のUSB端子に接続する

- USB端子にはほこり侵入防止用のカバーが取り付けられています。カバーを取り外してから充電してください。



- ※USB充電用ケーブルは本機に付属しておりません。
- 充電中は、USB端子の下にあるインジケータランプが点灯します。



注意

- ほこり、湿気の多いところでは電源プラグやUSBケーブルを長期間差しっぱなしにしないでください。ときどき、表面や接続部の間を掃除してほこりを取ってください。
- コネクタを接続する場合は、まっすぐ挿入してください。火災や故障、破損の原因となるおそれがあります。
- 一度端子部分が曲がってしまったコネクタは使用しないでください。火災や故障、破損の原因となるおそれがあります。

3

充電が完了したら、USB端子からUSB充電用ケーブルを抜き、エンジンを停止する

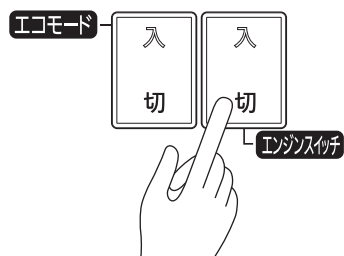
- 「エンジンの止めかた」（→P22）を参考にしてください。
- 使用後はほこり侵入防止のため、USB端子のカバーを取り付けてください。

使いかた つづき

■エンジンの止めかた

緊急停止する場合

エンジンスイッチを切にする



通常停止する場合



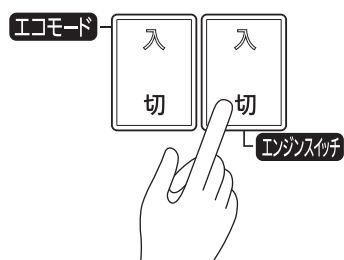
注意

●本機に接続されているすべての電気機器のスイッチを切り、取り外してからエンジンを止めてください。

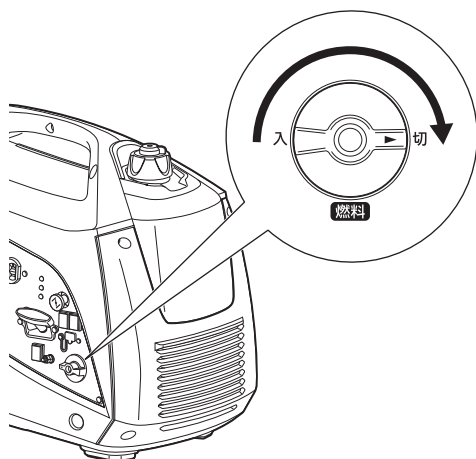
1 電気機器のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く

- ・エコモードスイッチが入になっている場合、切にしてください。

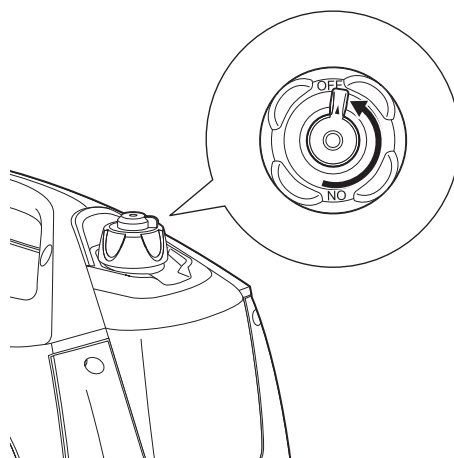
2 エンジンスイッチを切にする



3 燃料コックを切にする



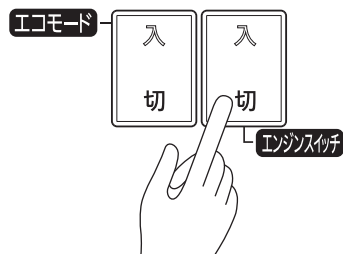
4 本機が十分に冷えた後で、燃料タンクキャップつまみをOFFにする



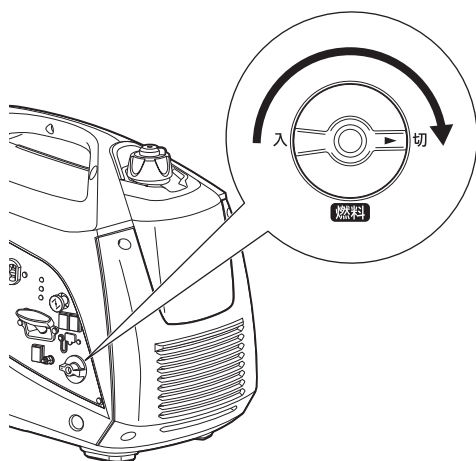
移動・運搬するときは

移動・運搬する場合、以下の手順にしたがって行ってください。

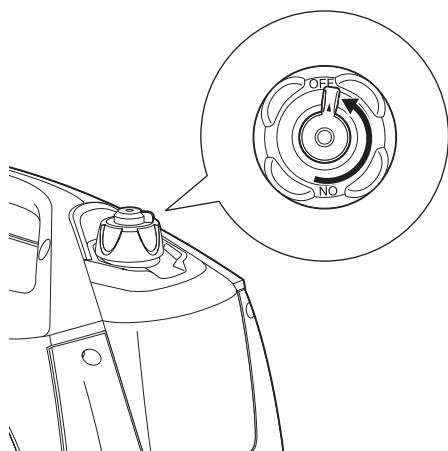
1 エンジンスイッチを切にする



2 燃料コックを切にする

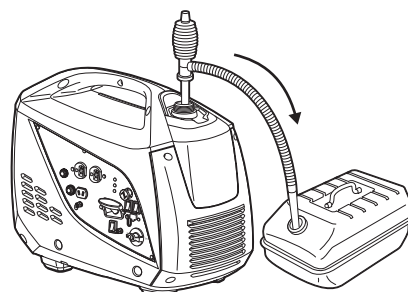


3 エンジンが十分冷えてから、燃料タンクキャップつまみをOFFにする



4 燃料をタンクから抜き、消防法に適合した鉄製の携行缶に入れ替える

- 燃料タンクキャップとストレーナーを取り外し、市販の手動式ガソリンポンプを使用して燃料を抜いてください。



- 燃料を抜いた後は燃料タンクキャップとストレーナーを確実に取り付けてください。
- こぼれた燃料はすぐに布切れなどで完全に拭き取ってください。

危険 ● 電動式ポンプは使用しないでください。引火の原因となります。

5 本機が転倒や落下、破損などをしないような場所を選んで積載し、ロープなどでしっかり固定する

- 横倒しのまま運搬した場合、エンジンがかからなくなるなど、エンジン故障の原因となります。

危険 ● 本機及び燃料入り携行缶を車室内やトランクに積んだまま、直射日光の当たるところや高温となる場所に放置しないでください。燃料が気化して引火しやすい状態になる原因となります。

警告 ● 本機を車のトランクに積んだまま長時間悪路を走行しないでください。
● 車両に積載したまま使用しないでください。

注意 ● 本機の上に重いものを置かないでください。

定期点検

- 以下のスケジュールにしたがって、定期的に点検を行ってください。
- 高負荷や高温下など、悪条件で使用する場合は、より頻繁に本機を点検してください。

対象部品	点検項目	始業点検	初回の1か月 後または20 時間運転後	3か月ごと または 50時間ごと	6か月ごと または 100時間ごと	1年ごと または 250時間ごと
点火プラグ	点検と清掃				● (→P27)	
	交換					● (→P27)
エンジンオイル	オイル量の点検	● (→P15)				
	交換		● (→P26)	● (→P26)		
燃料	量、もれの点検	● (→P13)				
エアクリナー	清掃		● (→P29)	● (→P29)		
	エレメント交換			● (→P29)		
燃料タンク ストレーナー	清掃				● (→P30)	
燃料配管部	亀裂、損傷の確認	● (→P16)				
	交換※	24か月ごと				
排気口 (スパークアレスター)	清掃※			●		
バルブクリアランス	点検と調整※				●	
燃焼室	清掃※					●
シリンダーヘッド ピストン	カーボンの除去※	125時間運転ごと				

※ これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、アイリスコールへご連絡ください。

常時使用しないときは（防災用途など）

日常的に使用せず、非常用電源など緊急時の防災用途として使用する場合、毎月1回の試運転を行ってください。

※ 燃料やオイルを長期間放置した場合、自然劣化してエンジンがかかりにくくなったり、故障の原因になるおそれがあります。

- ・ガソリンは、30日に1回、定期的に新しいガソリンと交換してください。
- ・エンジンオイルは自然劣化するため、「定期点検」（→P24）にしたがって交換をしてください。

※ 交換する場合は、必ず純正品または指定されたものを使用してください。

試運転のしかた

1 燃料、エンジンオイルを点検する

- ・「運転前の点検」（→P13）にしたがって点検をしてください。

2 エンジンかける

- ・「エンジンのかけかた」（→P17）にしたがってエンジンをかけてください。

3 電気機器を接続し、10分以上運転する

- ・「電気の使いかた」（→P18）にしたがって電気機器を接続してください。

4 エンジンの調子やオイル・燃料のもれ、出力ランプ（緑）やエンジンスイッチの動作を確認する



警告

- お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、お買い上げの販売店またはアイリスコールへご相談ください。

点検・整備

長期間ご使用いただくために、点検・整備は次の手順に沿って、定期的に行ってください。

※ 整備作業についてあまり熟知されていない場合、販売店またはアイリスコールへご連絡してください。



警告

- 点検する場合は、平坦で水平な場所で行ってください。また、エンジンスイッチを切にし、エンジンを停止したうえで、点火プラグキャップを取り外してから行ってください。



注意

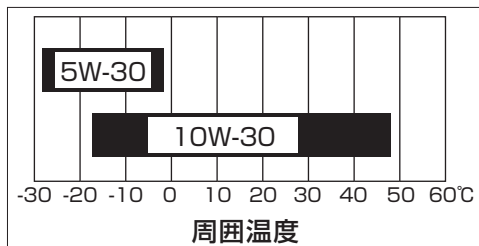
- 点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後は、本体や排気口、オイルが高温なため、やけどの原因となります。

■エンジンオイルの交換

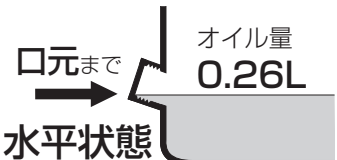
- ・交換の時期やオイル容量を守って交換をしてください。エンジンオイルの汚れはエンジンの寿命を著しく縮める原因になります。
- ・オイルは自然劣化します。使用していなくても定期的な点検や交換を行ってください。

推奨オイル：4サイクル用エンジンオイルSE級以上
SAE 10W-30
オイル規定量：0.26リットル

エンジンオイルは、お使いの地域の平均気温に応じて、下図にもとづいて使用してください。



オイル規定量：0.26リットル



1 エンジンを始動させ、2～3分暖機運転をする

- ・エンジンオイルが排出しやすくなります。

2 エンジンスイッチを切にする



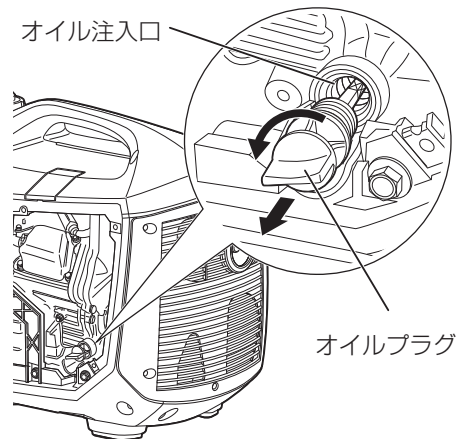
警告

- エンジンオイルは、エンジンが冷えるのを待って交換してください。エンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっているため、やけどの原因となります。

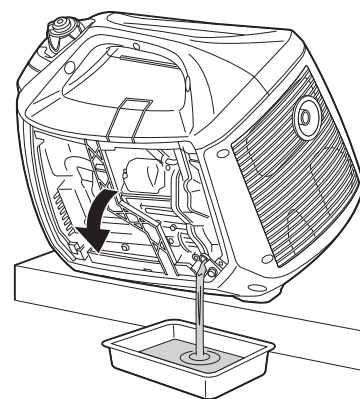
3 メンテナンスカバーを取り外す

- ・取り外しかたは、8ページを参考にしてください。

4 オイルプラグを外す



5 オイルを受ける容器を準備し、本機を一方に傾けてオイルを完全に抜く



警告

- ガソリン・オイルなどの油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）にしたがって適切に処理してください。不明な場合はオイルをお買い上げになった販売店にご相談ください。

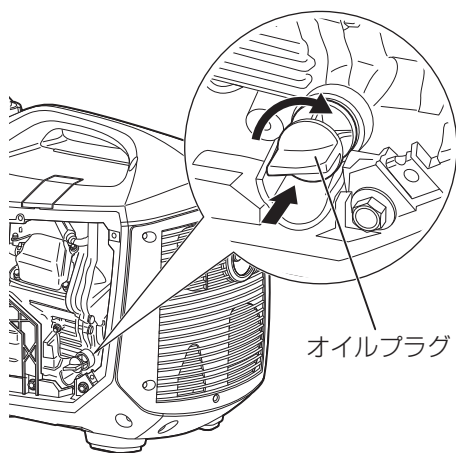
6 本機を水平に戻し、新しいエンジンオイルを規定量まで注入する

- ・付属のじょうごを使用してゆっくりと給油してください。

⚠ 注意

- エンジンオイルは規定量以上に給油しないでください。オイルを入れすぎた状態で始動した場合、エンジンの停止、白煙が出る、スターターハンドルを引けないなど不調の原因となります。

7 オイルプラグを確実に取り付ける



8 メンテナンスカバーを取り付ける

- ・取り付けかたは、8ページを参考にしてください。

⚠ 注意

- 給油時にこぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

■ 点火プラグの点検・調整・交換

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗すると、完全な火花が飛ばなくなり、不調の原因となります。点火プラグは徐々に劣化しますので、定期的に取り外して点検してください。

指定点火プラグ：NGK BPR6HS
もしくはこれと同等のもの

※故障や事故の原因となるため、指定以外の点火プラグを使用しないでください。



注意

- やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

1 エンジンスイッチを切にする

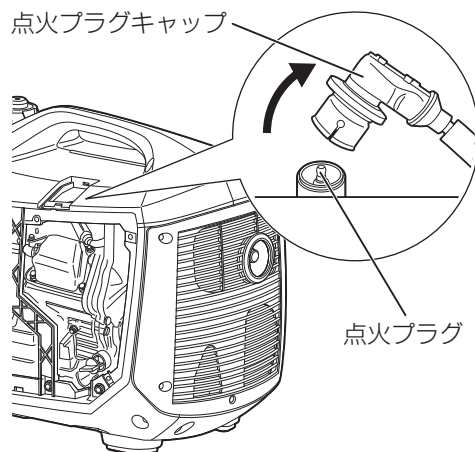
2 メンテナンスカバーを外す

- ・取り外しかたは、8ページを参考にしてください。

3 点火プラグメンテナンスカバーを外す

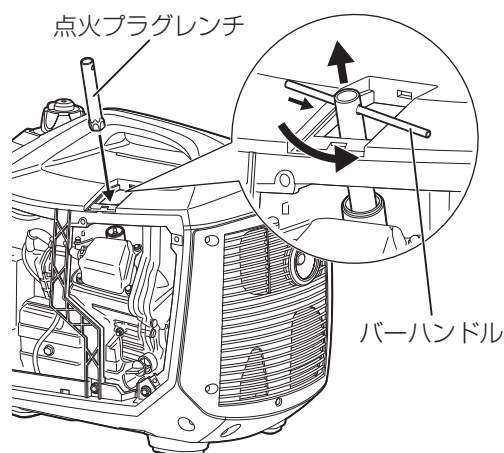
- ・取り外しかたは、9ページを参考にしてください。

4 点火プラグキャップを点火プラグから外す



5 点火プラグツールをプラグ孔に入れて、反時計回りに回し、点火プラグを取り外す

- ・点火プラグレンチにバーハンドルをセットして使用してください。





注意

- 点火プラグ脱着時は、白い陶器部分である碍子（がいし）を損傷させないよう注意してください。碍子を損傷すると漏電し、火災などを引き起こす原因となります。
- 点火プラグを外す際は、けがをしたり、本機を倒さないよう注意してください。（最初は強い力が必要です）

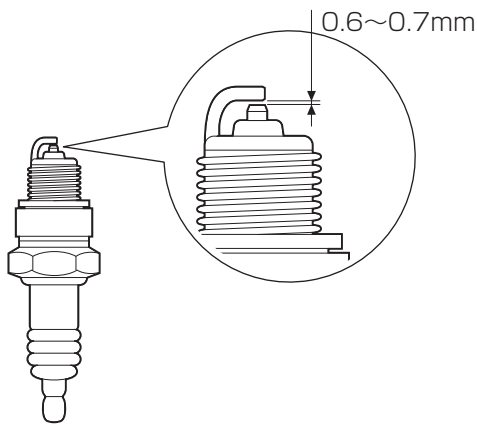
6 プラグを清掃する

- ・ 点火プラグがぬれているときや汚れている場合は、布切れなどできれいにしてください。
- ・ 電極付近が黒くまたは白く焼けている、ガソリンで湿っている場合、パーツクリーナーで清掃してください。（通常はきつね色に焼けます）

7 プラグの電極のすき間（点火プラグギャップ）の寸法を確認する

点火プラグギャップ：0.6～0.7mm

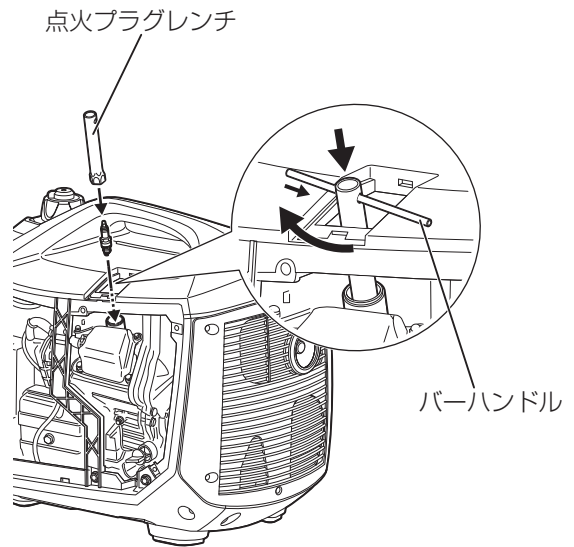
※ 上記の寸法になっていない場合、調整してください。



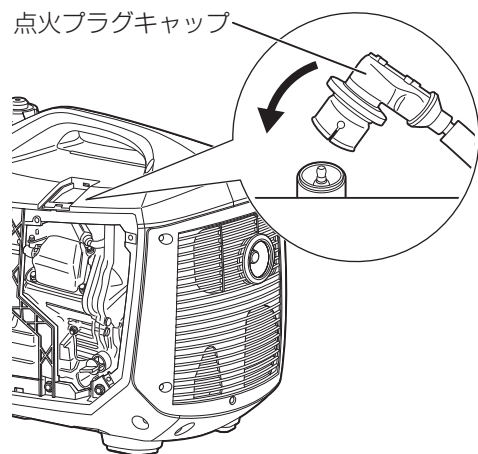
8 点火プラグを取り付ける

- ① 電極部分を下にして、点火プラグレンチにセットして、まっすぐ慎重にねじ込んでください。
- ※ このとき、最初からバーハンドルを使用して締め付けしないでください。まっすぐねじ込めていない場合、エンジンが破損することがあります。

- ② バーハンドルを点火プラグレンチにセットして、点火プラグをしっかり締め付ける
- ※ 点検・調整・交換後は点火プラグキャップを確実にセットしてください。確実にセットできていない場合、エンジン不調の原因となります。
- ※ 新品の点火プラグに取り替える場合、手で締め付けた後にバーハンドルで1/4から1/2回転を目安にしっかり締め付けてください。



9 点火プラグキャップを取り付ける



10 点火プラグメンテナンスカバーとメンテナンスカバーを取り付ける

- ・ 取り付けかたは、9ページ（点火プラグメンテナンスカバー）、8ページ（メンテナンスカバー）を参考にしてください。
- ※ 点火プラグの清掃や電極のすき間調整をしてもエンジンがかからない場合、新しい点火プラグに交換してください。

■エアクリーナーの清掃

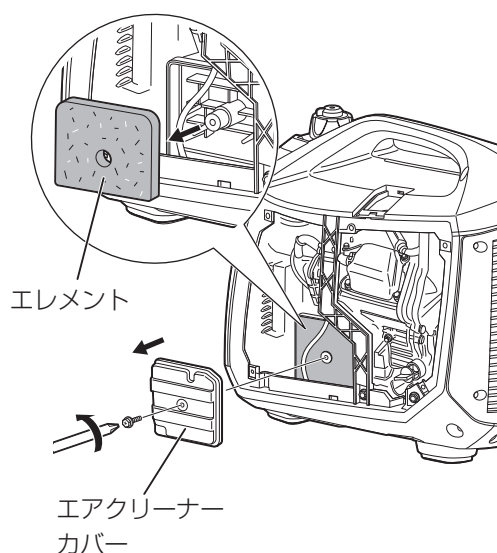
エアクリーナーが目詰まりすると、出力が不足し燃料消費が多くなります。定期的に清掃をしてください。

1 エンジンスイッチを切にする

2 メンテナンスカバーを取り外す

- ・取り外しかたは、8ページを参考にしてください。

3 エアクリーナーカバーのねじ（1か所）を回しカバーを外し、エレメント（濾過部）を取り外す



4 エレメントを洗浄し、乾燥させる

- ・水で薄めた液体洗剤で洗った後、きれいな布で包んで絞ります。



5 新しいエンジンオイルに浸してよく絞る

- ・きれいな吸水性のある布で包んで絞り、余分な油をすべて取り除いてください。

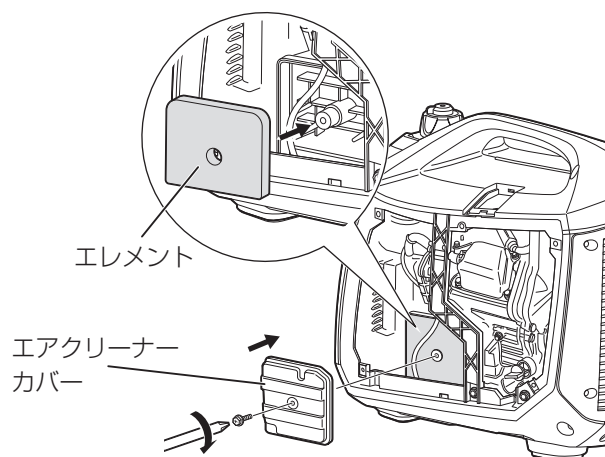
※エレメントをねじらないでください。やぶれてエンジン不調の原因になります。



警告

- ガソリン・オイルなどの油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）にしたがって適切に処理してください。不明な場合はオイルをお買い上げになった販売店にご相談ください。

6 エレメントを取り付け、エアクリーナーカバーを取り付ける



- ・エレメントは、めくれやずれのないように確実に取り付けてください。

※エレメントを取り付けていない状態では、絶対にエンジンを始動させないでください。エンジンが故障する原因となります。

7 メンテナンスカバーを取り付ける

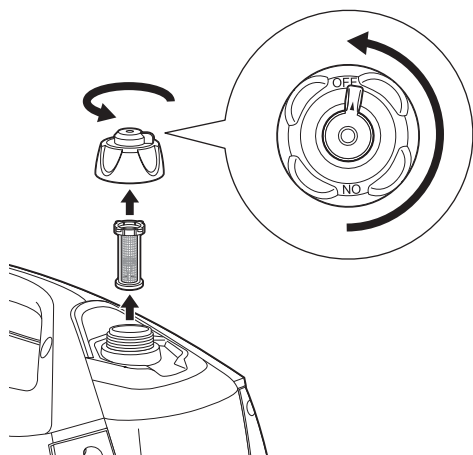
- ・取り付けかたは、8ページを参考にしてください。

■燃料タンクストレーナーの清掃

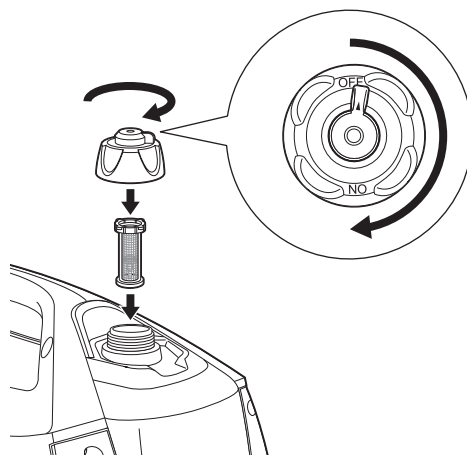
※ ストレーナーが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れがたまっていることがあります。

1 エンジンスイッチを切にする

2 燃料タンクキャップとストレーナーを取り外す



4 ストレーナーを取り付け、燃料タンクキャップをしっかり締めます



3 きれいな灯油を使用して、ストレーナーを洗浄する

※ 洗浄後はストレーナーを拭いて余分な油分を取り除いてください。



危険

● 灯油で洗浄するときは、たばこの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。灯油は引火しやすいため、火災の原因となります。



警告

● 洗浄は換気の良い場所で行ってください。



注意

● 穴が開いているなど、ストレーナーが破損している場合は新品に交換してください。

保管するときは

本機は少なくとも月に1回、10分以上動かしてください。次の使用が1か月以降になる場合は「一時保管」を、それ以上長期的に運用しない場合は「長期保管」を以下の手順にしたがって行ってください。

■一時保管のしかた

1 エンジンスイッチを切にし、エンジンを停止する

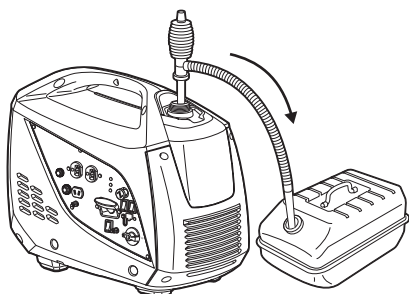
※ 停止後、エンジンを完全に冷ましてください。

2 各部（本体、エアクリーナーなど）の清掃を行う

・「点検・整備」（→P26）を参考に行ってください。

3 燃料をタンクから抜き、消防法に適合した鉄製の携行缶に入れ替える

・燃料タンクキャップとストレーナーを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜いてください。



・燃料を抜いた後は燃料タンクキャップとストレーナーを確実に取り付けてください。
・こぼれた燃料はすぐに布切れなどで完全に拭き取ってください。



危険 ●電動式ポンプは使用しないでください。引火の原因となります。

4 燃料タンクキャップつまみをONにする

5 燃料コックを入にする

6 チョークレバーを始動の位置にスライドさせる

・エンジンが温まっている場合や夏季は操作不要です。

7 エンジンスイッチを入に、エコモードスイッチを切にする

8 スターターハンドルを引き、エンジンを始動する

9 エンジン始動後、エンジンの回転が安定したら、チョークレバーを運転の位置にスライドさせる

※ 電気機器は接続せず、無負荷運転を行ってください。

10 エンジンが「ガス欠状態」になり停止するまで待つ

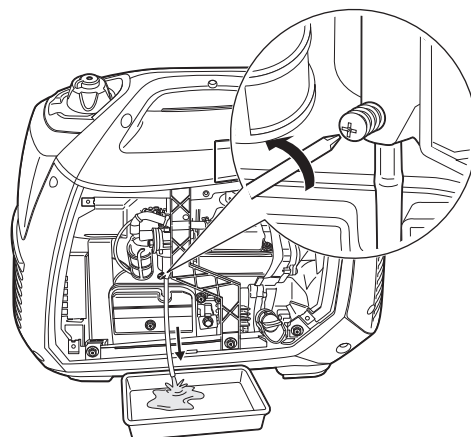
※ 燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は異なります。

11 メンテナンスカバーを外す

・取り外しかたは、8ページを参考にしてください。

12 キャブレターのドレンねじをドライバーで外して燃料を抜く

・燃料はドレンパイプの下に容器を置いて受けてください。



警告 ●こぼれた燃料はすぐに布切れなどですべて拭き取ってください。

※ キャブレター内のガソリンを抜かずに長期的に放置した場合、ガソリンが変質し故障の原因になります。

つづく→

保管するときは つづき

13 完全に燃料が抜けたら、ドレンねじを締め付けてドレンパイプを元に戻す

14 エンジンスイッチ、燃料コックを切にし、燃料タンクキャップつまみをOFFにする

15 メンテナンスカバーを取り付ける
・取り付けかたは、8ページを参考にしてください。

16 シートなどを掛けて、室内で湿気が少なく風通しの良い場所に保管する



注意

●本機にシートなどのカバーを掛ける場合は、エンジン部、排気口部が冷え切ってから行ってください。火災の原因となります。

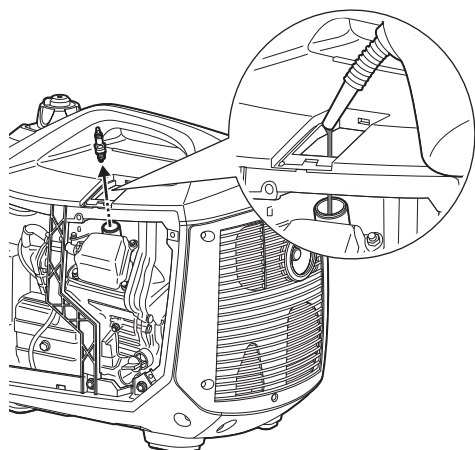
■長期保管のしかた

1 31ページ「一時保管」の手順14までを行う

2 点火プラグメンテナンスカバーを外す
・取り外しかたは、9ページを参考にしてください。

3 点火プラグキャップを外す
・取り外しかたは、9ページを参考にしてください。

4 点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを3～5mL程度給油する



・取り外しかたは、27ページを参考にしてください。

5 スターターハンドルを2～3回ゆっくりと引く

6 点火プラグ、点火プラグメンテナンスカバー、メンテナンスカバーを取り付ける
・取り付けかたは、28ページ（点火プラグ）、9ページ（点火プラグメンテナンスカバー）、8ページ（メンテナンスカバー）を参考にしてください。

7 スターターハンドルを引き、重くなったところ（圧縮状態）で止める

8 シートなどを掛けて、室内で湿気が少なく風通しの良い場所に保管する



注意

●本機にシートなどのカバーを掛ける場合は、エンジン部、排気口部が冷え切ってから行ってください。火災の原因となります。

使用できる範囲

■ 交流電源

アース付3本足コンセント×2個	AC100V/合計16Aまで
-----------------	----------------

使用例		使用できる範囲
電気ポット オーブントースター 炊飯器 テレビ 照明（白熱灯、ハロゲン灯など）	交流のみ	1600W(VA) まで
	交流・直流併用	1500W(VA) まで
水中ポンプ コンプレッサー ドリル ジグソー 掃除機 照明（水銀灯、メタルハライドランプなど）		400W(VA) まで
		モーターは起動電流の多い製品、または種類によって使用できない場合があります。電気機器会社にお問い合わせください。

- ・ご使用の前に、使用する電気機器の消費電力を確認してください。
- ・安定器の付いた放電タイプのランプ（水銀灯、メタルハライドランプなど）を消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。本機や使用する電気機器に不具合が発生する原因となります。
- ・使用する電気機器によっては、本機とのマッチング上、不具合が発生することがあります。電気機器会社にお問い合わせください。

■ 直流電源

八型コンセント×1個	DC 12V/8.3A まで
------------	----------------

- ・直流電源使用時はエコモードを使用できません。エコモードスイッチを**切**にしてください。
- ・本機の直流電源は12Vバッテリー充電にのみ使用することができます。

■ USB出力

USB端子×1個	DC 5V/2.1Aまで
----------	--------------

- ・USB端子（直流）ではエコモードを使用することができません。エコモードスイッチを**切**にしてください。

アフターパーツ・付属品について

アフターパーツや付属品については、アイリスコールへご相談ください。

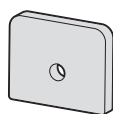
■アフターパーツ



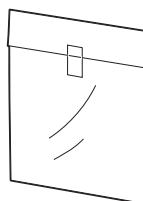
燃料タンクストレーナー



燃料タンクキャップ

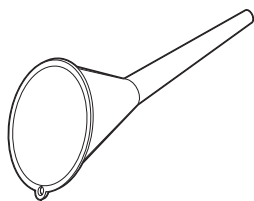


エアクリーナーエレメント

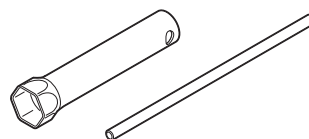


ラベルシールセット

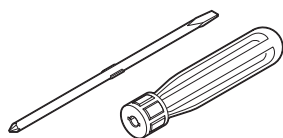
■付属品



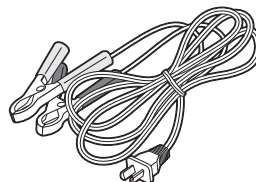
エンジンオイル給油用じょうご



点火プラグツール



ドライバー



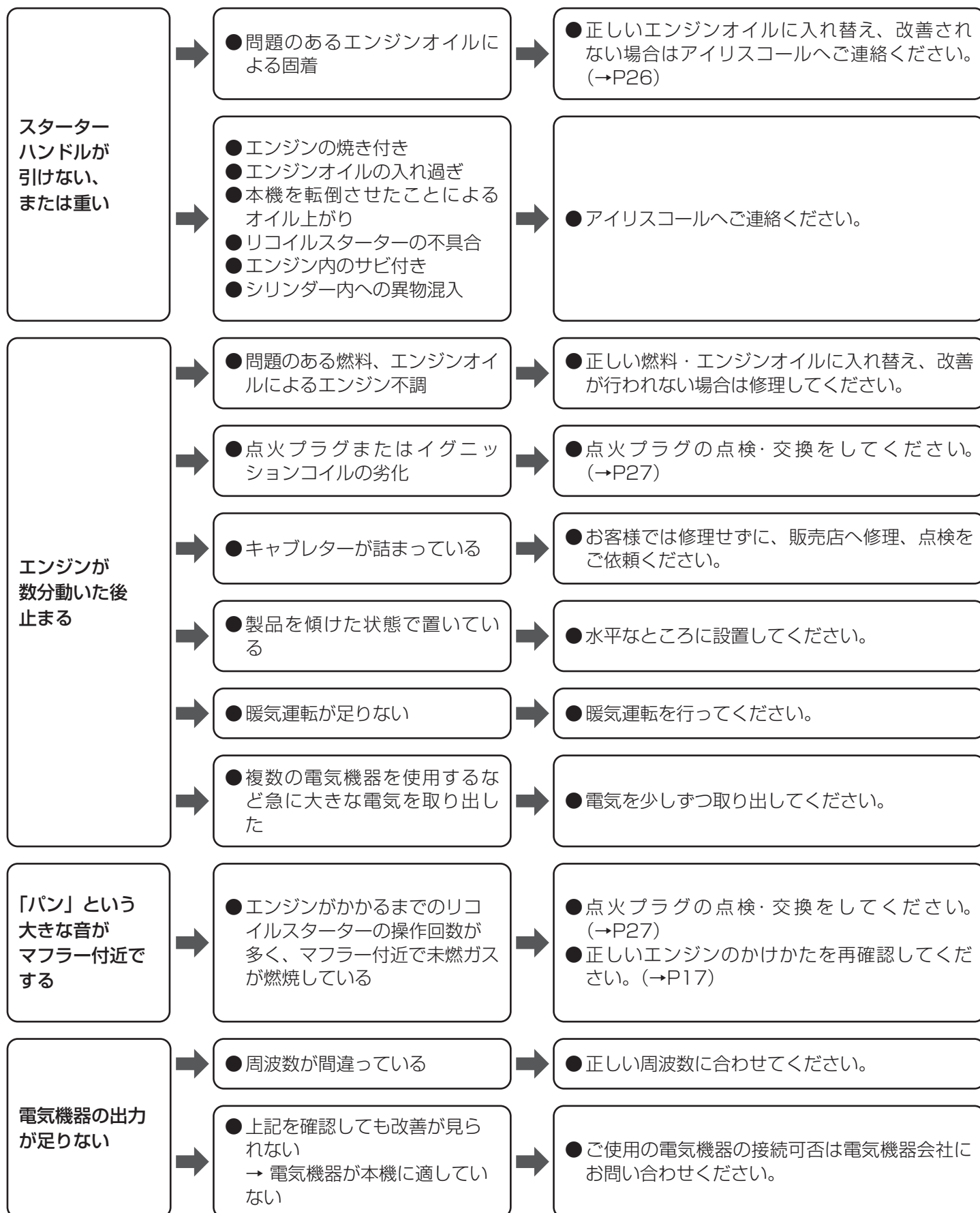
直流電源用12Vバッテリー
充電ケーブル

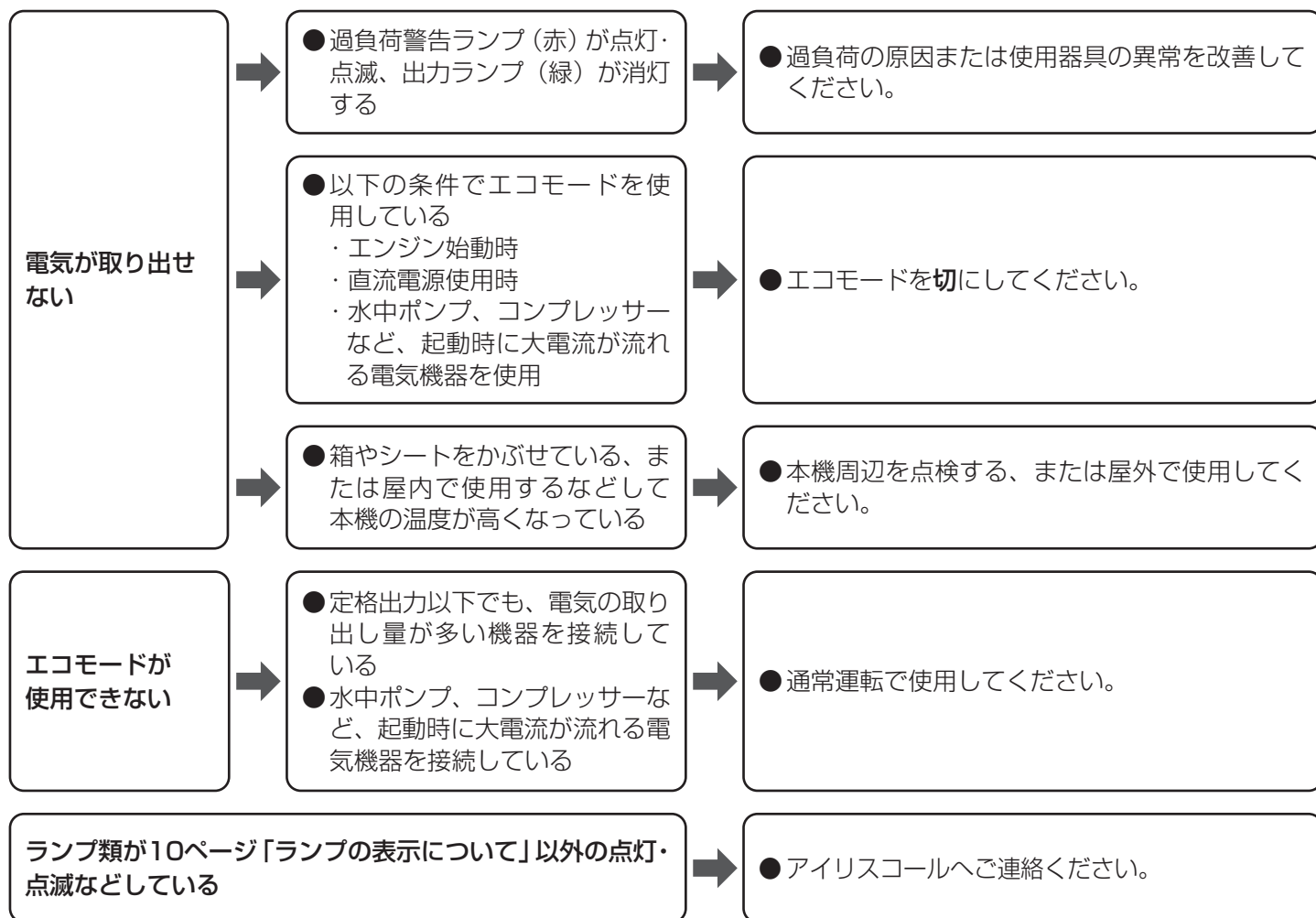
故障かな？と思ったら

使用中に異常が生じた場合は、修理を依頼される前に本書をよくお読みのうえ、以下の点を確認してください。

状 態	考えられる理由	処 置
エンジンが 始動しない	● 燃料が入っていない	● 燃料を給油してください。(→P13)
	● オイル警告ランプ（黄）が点灯している → エンジンオイルが入っていない、量が少ない	● エンジンオイルを給油してください。(→P15)
	● 本機が傾いている → オイルアラート機能の作動	● 水平にしてください。
	● 燃料タンクキャップつまみがOFFになっている	● ONにしてください。
	● 問題のある燃料、エンジンオイルによるエンジン不調	● 正しい燃料・エンジンオイルに入れ替え、改善が行われない場合はアイリスコールへご連絡ください。(→P13～16)
	● エンジンのかけかたに不足などがある	● 正しいエンジンのかけかたを再確認してください。(→P17)
	● 点火プラグかぶり、汚れ、破損	● 点検・調整・交換をしてください。(→P27)
	● エアクリーナーの汚れ	● エアクリーナーの清掃をしてください。(→P29)
	● ガソリンタンクまたはキャブレターに水が入っている	● キャブレターのドレンねじをゆるめて水を排出してください。
	● チョークレバーの位置調整が適切でない	● エンジンが温まっている場合や夏季は「運転」 ● エンジンが冷えている場合や冬季は「始動」
	● 燃料系に燃料が送られていない	● 新規購入後の1回目およびドレンパイプから燃料を抜いた後は、スターターハンドルを約10回引いてください。
	● 本機を転倒させたことによるオイル上がり ● キャブレターや排気口（スパークアレスター）が詰まっている ● 上記を確認しても改善が見られない → エンジン内部部品の損傷	● アイリスコールへご連絡ください。

故障かな？と思ったら つづき





それでも解決できないときは

お買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。



警告

● 自分で分解・修理・改造しないでください。

仕様

機種		IGG-1600
形式		多極界磁回転型
力率		1.0
定格周波数 (Hz)		50Hz/60Hz 切替式
交流	定格出力 (kVA)	1.6
	定格電圧 (V)	100
	定格電流 (A)	16
直流	定格電圧 (V)	12
	定格電流 (A)	8.3
装備	交流コンセント	アース付3本足コンセント×2個
	交流過電流保護装置	リセットスイッチ
	直流コンセント	八型コンセント×1個
	直流過電流保護装置	リセットスイッチ
	USB出力	USB端子×1個
エンジン	エンジン種類	空冷4ストロークガソリンエンジン
	総排気量 (cm ³)	80
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	スパークプラグ	BPR6HS (NGK)
	エンジンオイル	4 サイクル用エンジンオイルSE 級以上 SAE 10W-30
	エンジンオイル規定量 (L)	0.26
燃料タンク容量 (赤レベル) (L)		3.4
定格連続運転時間 (赤レベル) (h)		3.5時間
1/4 負荷 (エコモード) 連続運転時間 (赤レベル) (h)		9時間
始動方式		リコイル式
使用環境温度		0℃～40℃
乾燥重量 (kg)		21kg
全長×全幅×全高 (mm)		500 × 310 × 420

本機を下記の環境下で使用すると、出力が低下する場合があります。
この場合は本機の負荷を下げてください。

- ・ 周囲温度：40℃以下
- ・ 気圧：100kPa以下
- ・ 相対湿度：30%以上

保証とアフターサービス

必ずお読みください。

■ 保証書

お買い上げの際に、所定の事項が記入されている保証書をお買い上げの販売店より必ずお受け取りください。

保証書がありませんと、無料修理保証期間内でも代金を請求される場合がありますので、大切に保管してください。

■ 保証期間

保証期間は、保証書（裏表紙）に記載されています。保証期間内に故障した場合は、保証規定にしたがって修理させていただきます。

■ 保証期間経過後の修理

お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。修理により製品の機能が維持できる場合は、ご要望により有料にて修理いたします。

■ アフターサービスについて

ご不明な点はお買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。

インバーター発電機 IGG-1600

保証書

本書は、お買い上げ日から下記期間内に故障が発生した場合に、下記の保証規定により無料修理を行うことをお約束するものです。

お買い上げ日 ※		保証期間		お買い上げ日より：1年間 ※付属品及び消耗部品を除く	
年 月 日					
お 客 様	お名前			※ 販 売 店	住所・店名
	ご住所 〒				
	電話（ ） -				電話（ ） -

販売店様へ： ※印欄は必ず記入してお渡してください。

保証規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で故障及び損傷した場合には、弊社が無料にて修理または交換いたします。
- 保証期間内に、故障などによる無料修理をお受けになる場合には、お買い上げの販売店にて、保証書をご提示のうえ、修理をご依頼ください。
- 保証内容は本製品自体の無料修理に限ります。保証期間内においても、その他の保証はいたしかねます。
- ご転居や贈答品などで本保証書に記入してある販売店に修理をご依頼になれない場合には、アイリスコールにお問い合わせください。
- 保証期間内におきましても次の場合には有料修理になります。
 - 使用上の誤り、不当な修理、改造などによる故障及び損傷
 - お買い上げ後の落下などによる故障及び損傷
 - 火災、地震、その他の天災地変による故障及び損傷
 - 一般家庭用以外（たとえば業務用の長時間使用、車両・船舶への搭載など）に使用された場合の故障及び損傷
 - お買い上げ後の移動、輸送または什器・備品などとの接触による故障及び損傷
 - 本書の提示がない場合
 - 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

- ※ この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を発行しているもの（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。
- ※ 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間については、「保証とアフターサービス」をご覧ください。

アイリスオヤマ株式会社 〒980-8510 仙台市青葉区五橋2丁目12番1号
ホームページ <http://www.irisohyama.co.jp/>

製品に関するお問い合わせは
アイリスコール (通話料無料)

0120-311-564

修理に関するお問い合わせは
修理専用コール (通話料無料)

0800-170-7070

受付時間 平日 9:00～17:00、土・日・祝日 9:00～12:00 / 13:00～17:00
(年末年始・夏期休業期間・会社都合による休日を除く)

FAX でのお問い合わせは (通話料無料) 0800-888-2600

Web からの問い合わせは <https://www.irisohyama.co.jp/support/>
メールアドレスにご記入のうえ送信してください